

1964.8.2~4

第14回 全道造形教育研究大会
第9回 造形教育センター全国大会



主催 北海道造形教育連盟・造形教育センター・札幌市立北九条小学校

大会日程

		9.00	10.00	11.00	12.00	13.00	14.00	15.00	16.00	17.00	18.00
第1日 (8月2日)	受付	公開授業	開会式	パネル ディスカ ッション	昼食 レクレー ション	分科会	学 校 種別部会 総合部会				パーテー (希望者)
第2日 (8月3日)	受付	総合部 会報告	デザイン部会 発表	講演 武井勝雄 「子どもの造形能力の発 達について」国際美術 会議東京大会について	映画一観光 北海道一 昼食	デザイン部会	同上				宿舎研究
第3日 (8月4日)	受付	同上			閉会式	解					散

◇ 研究主題の経過と開催地

- 情操教育振興の一環として本道図工教育の進展を図るため。
 - 各地に於ける図工教育の実態に立った共通的問題の究明。
 - 全道小学、中学、高校、大学教員の団結を図り組織の結成をはかる。
- 美術教育の新思潮である創造主義美術教育の諸問題について。
- 美術教育の指導とは何か。
- 図画工作教育実践上の諸問題について。
- 図画工作教育における学習指導上の問題点の解決。
- 造形教育においてつくり出す力を養うにはどうしたらよいか。
- のぞましい造形教育における具体的諸問題について。
- 図画工作学習によって児童生徒の人間性がどのように培われるか。

……現場の実践を通して……
- 新段階における造形教育のあり方。
- 本道における造形教育の実践を通して今後のあり方を見出そう。
- 子どもたちの芸術性を育てるために私たちは何を与え、何をすべきか。
- 子どもが生活をみつめて造形的に高まっていくために私たちはどうしたらよいか。
- 子どもの造形能力とは何か。
 - 発達段階に立つ学習内容のたしかめ。
 - 子どものデザインとは何か。

北海道造形教育連盟

(26年)	札 幌 市
(27年)	札 幌 市
(28年)	旭 川 市
(29年)	函 館 市
(30年)	釧 路 市
(31年)	札 幌 市
(32年)	室 蘭 市
(33年)	小 樽 市
(34年)	帯 広 市
(35年)	網 走 市
(36年)	滝 川 市
(37年)	名 寄 市
(38年)	全 道

目 次

大会日程 研究主題の経過と開催地	部 会	24
研究要項	デザイン部会	29
公開授業一覧並授業案	北九条研究	34
開 会 式	宿 舎 研 究	36
パネルディスカッション	講 演	37
分 科 会	閉 会 式	22

第14回全道造形教育研究大会 研究要項

第9回造形教育センター全国大会

1. 研究主題

子どもの造形能力とは何か。
○発達段階に立つ学習内容のたしかめ。
たてよこの関連を考えた学習内容を検討することの中で子どもの造形能力を究明する。

○子どものデザインとは何か。
デザイン教育の理念を明らかにし、実際指導の方向を子どもの造形能力研究の角度から明確にする。

1 「子どもの」という打ち出しは、おとなの造形感覚と子どものそれとは他の分野で考えられないほどの違いがあり、それが漠然としているところに本質を誤り、研究の進展をはばむ要素が含まれていると思われるのでここに焦点をおいたものである。

2 連盟の研究推進過程でここ数年教科課程改訂に伴う造形教育の本質、指導理念の探求を焦点としてきたが、38年度「縦の系統」の検討から必然的に実際指導面からの具体的研究の段階にあると思われる。

3 この主題は明らかに実際指導方向の基盤にかかわるものであるとともに造形教育の本質把握を深める位置にある。

4 全道会員の共通理念を強化する意味で現在最も必要な点であると判断した。

2. 大会運営の態度

全道大会も回を重ねてきているのでその長い過程の積み上げと将来への確固たる歩調を整える意味で大会の在り方をはっきりさせたいと考えている。

○いわゆるお祭り騒ぎにならない実質的研究に終始したい。会員各位からとかく大会の研究方向のあいまいさが指摘されがちなので、本大会では十分反省し、問題意識を的確にし、その解決の有力な機会として、討議の方向や結論された問題等について、あくまでも適切に処理するよう大会の機能を有機的に発揮したい。

○特に造形センター全国大会を併催しているので、この機会に問題の多いデザイン教育を中心に造形センターの指導理念を理解し究明して行きたい。

3. 研究授業

小学校9、中学校3、高校2、幼稚園2、特殊学級1
○小学校は会員北9条小学校の職員で行うものであり、いわゆる美術教師によるものでない。
ここでは質の高さよりも、一つの学校の日常の造形教育の素直な姿に着眼してほしい。

○幼、特は描画、中、高はデザインを行う。

○授業は次のような共通の申し合わせの範囲で計画されている。

- ・主題に即した計画であること。
- ・授業の中に子どもの造形能力の伸びを要求する内容をもつ。
- ・指導の経過や今後の発展や方向を示すようにする。
- ・見せる授業でなく日常の素直な姿で行う。

○授業は主題の具体的展開であるが、主題の到達点でなく、あくまで出発点として考えていきたい。だから個々の授業者は、各自の独自の解釈の中で行っているの、いろいろな問題が予想されるが、本大会のスタートにおける問題提起の素材として取扱っていききたい。

4. パネルディスカッション

主題 子どもの造形能力をどう捉え、どのように伸ばしたらよいか。

このディスカッションを通し、主題の意味するものを含みながらその問題点と解決の道すじを明確にして行きたい。

討議の柱
○われわれは造形教育を通じて子どもにどんな能力を

つけるのか。
○子どもの造形能力を伸ばすためにわれわれはどうしなればならないか。
○子どもの造形能力を伸ばすための問題点。

5. 分科会

主題 子どもの造形能力とは何か。

一領域において発達と系統の上から吟味しよう一
○分科会の構成が描画・版画・彫塑の心象表現の分野であるから、この面からの造形能力を吟味したい。

○幼小中高1本の立場から造形能力の発達と系統を掘んでいきたい。

○討議の素材として連盟編、幼小中高の系統表(38年度編)および造形能力体系表を用意する。

○昨年度は「幼小中高のつながりに立ち学習内容の系統づけをしよう」という主題で学習内容の系統について研究を深め一応の成果をおさめたのであるが、本分科会には更にこれを造形能力の面から吟味しようとするものである。学習は常に子どもの造形能力の伸張・発達を予想して計画されるものでなければならぬ。題材は単に孝節や行事等の中に設定されるものではなく、あくまで子どもの心情や行動とともに明確に造形能力の発達を期待して計画されることが要求されてくる。故に学習内容はこの能力の角度から検討されることによりより確かなものになると思うのである。

○この際われわれはまず「造形能力とは何か」を明らかにする必要がある。造形学習を通して子どもに如何なる能力を養おうとするのか、その正体を具体的に吟味する作業を展開しなければならぬ。造形能力についてはおそらく多岐にわたる見解が予想されるがそれらを収約し、造形能力の具体的窓口を設定して、更にこれが伸張をはかる学習内容をどう組み合わせるかの緒を掴みたい。

6. デザイン部会(全体集会)

本大会は造形センターの全国大会を併催しているのでこの部会はセンターの骨格をなしているデザイン教育の理論と指導の実際について究明しようとする意図をもっている。

主題 子どものデザインとは何か。

○本道におけるデザイン教育は指導要領改訂以来いろいろの角度から研究をつけてきたが、心象表現の分野の研究に比し理論的にも実践的にも多くの問題を残している現状にある。

○特に「子どものデザイン」の問題はデザイン教育がおとなのデザインの子備段階として行われたり、感覚訓練的活動がデザイン教育そのものと錯覚するなど混乱がある。

○子どもが自らの生活の中で「伝えたり」「作ったり」する必要に迫られて「いかに伝えるか」「いかに作るか」の創意を働かせる。この道筋の中に子どものデザインがあると思う。これらのことは子どもの生活をどう解釈するかとか、その中から具体的に何をえらび題材化するかなど数多くの未解決の問題をはらんでいる。

○造形センターの指導理念を理解するために基礎造形、視覚伝達機能造形の分野の詳細な解説と指導の具体事例をただし、更に子どものデザインとは何かについて理解を深めたいと考えている。

7. 総合部会

○この部会は分科会およびデザイン部会の討議内容を総合的に検討し討議の成果を収約し問題点を明確に把握する任務をもつ。

○この部会は各分科会の討議内容を持ち寄り2名づつの代表によって構成しデザイン部会の際は適任者を選出して構成する。

○その日の討議の成果を収約して翌日全体に発表する。

8. 学校種別部会

○幼児、父母部会、中学校部会、高校部会、特殊教育部会、単複部会をもっている。

○学校種別毎に当面の問題の中から主題を設定している。

第1日 8月2日(日)

公開授業 (9.00~9.50)

学年	領域	題材	授業者	学年	領域	題材	授業者
幼稚園	描画	バス遊び	札幌市なかじま幼稚園 戸田純子, 永田正子 反橋信子, 芝木マサ	小6	デザイン (立体)	守ってほしいこと	札幌市立北九条小学校 長谷川 正
同	ねんど	動物	札幌市光華幼稚園 相羽和子, 森 和子 本堂いみ子, 石川観悠	小6	デザイン (平面)	私達の旗	同 坂本晃一
小1	描画	どうぶつえん	札幌市立北九条小学校 佐々木不二江	中1	デザイン	案内文字をつくろう	札幌市立北陵中学校 千葉光男
小2	デザイン	ならべてみよう	同 八田 貞	中2	デザイン	白と黒による平面の分割	札幌市立日章中学校 佐野千尋
小3	デザイン	ささえる工夫	同 江 副 文	中3	デザイン	標 識	札幌市立北辰中学校 鳥谷部 順一
小4	描画 共同制作	おもしろいお話	同 佐々木 理温	高	デザイン	パネル制作	道立札幌月寒高等学校 中村 矢一
小5	デザイン (立体)	べんりなしかけ	同 鈴木 政信	高	デザイン	包 装	道立札幌北高等学校 寺井 孜
小5	版画 (デザイン)	わたしの おねがい	同 間ヶ敷真佐子	特殊 学級	描 画	街のようすや動物園をみんな で描こう	札幌市立桑園小学校 野本 醇 札幌市立東小学校 鈴木 益江
小6	描 画	街で見 てきたところ	同 佐藤 圭				

公開授業

学習指導案

札幌市中の島幼稚園

男 20名 女 21名

指導者 芝木マサ 反橋信子
戸田純子 永田正子

1. 題材 〈バス遊び〉

2. 題材観

○幼稚園バス遊びの中で見たり感じたことを素直に表現させる。

3. 指導のねらい

○集団生活の経験を通して生活の中から自由に素材を選び自分を強く打出す心を育てる。

4. 指導計画(3時間)

- えのぐ遊び..... 1時間
- 新聞紙で自由な形を作って遊ぶ..... 1時間
- (バスの道すじ停留場をきめる)..... 1時間(3/4)
- バス遊び

5. 本時の指導

- ねらい 好きな材料をえらんで楽しく描く。
- 準備 停留所, えのぐ, ぞうきん, 水, クレパス, 鉛筆

○本時の展開

学 習 活 動	指 導 の 要 点
<ul style="list-style-type: none"> ○バスごっこをする。 ○自分の画きたい場所, 材料をえらぶ。 ○たのしく画きたいものを描く。 ○子供の絵を一緒にならべてみる。 ○後仕末ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・上手にのりおりできる(自分の停留場をきめたか) ○材料を上手にえらぶ。 ○自由にのびのびと描いているか。

学習指導案

札幌市光華幼稚園

男 12 名 女 12 名

指導者 石川 悠 硯 相羽 昶 子
本堂 いみ子 森 和 子

1. 題 材 (ねんど) どうぶつ

2. 題 材 観

ねんどいじりのような遊びの中でも子ども達が、好んで作るものの中に動物が多くを占める。その好む動物を子どもなりの目標に向かって作りだすようにしたい。

3. 指導のねらい

◦作りだす喜びを持ち、子どもなりに考えて作ろうとする自己表現の芽を育ぐむ。

4. 指導計画(6時間)

- ねんどあそび(粘土).....1時間
- いろいろな形(〃).....2〃〃
- 好きな動物(〃).....2時間前半(本時)
- 動物園あそび(〃).....1時間

5. 本時の指導

- ねらい のびのびといろいろな動物を作る。
- 準備 ネンド、ネンド板、布、バケツ

◦本時の展開

学 習 活 動	指 導 の 要 点
<ul style="list-style-type: none"> ・動物園作りについて話し合う。 ・作るものをきめる。(動物園でみた動物について話し合いをする。) ・動物つくりをする。 ・できた動物を並べる。 ・できた動物について話し合う。 ・この次に作るものに関心をもたせる。 ・後片づけをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どんな動物がいたか話し合う。 ・いろいろな形(細長い形、丸い形を變形していく)から動物を連想させる。 ・作ろうとするものをきめるように向ける。 ・のびのびと思いのままに作らせる。 ・まだまだいろいろな動物が欲しいね(助言) ・いろいろな動物を、もう一度作って、今度は動物園作りをすることにしよう。 ・きちんとかたづける。 ・手を洗う。

学習指導案

札幌市立北九条小学校 1 年

男 26 名 女 22 名

指導者 佐々木 不二江

1. 題 材 (描画) どうぶつえん

2. 題 材 観

- 子どもたちは動物に非常に強い興味と愛着を持っている。身近な小動物にしか接する機会のない子どもらが、動物園の珍しい大きい動物を見た時の喜びは、さらに大きいものと思われる。その心象を絵によって表現させることは、主観的自己主張の強いこの期の子どもに、もっとも適した題材と思われる。抵抗の少ない水絵の具で、のびのびと、たのしくかかせたい。
- 入学以後クレヨンで描画をやってきたが、面の表現に抵抗を感じることはしばしばであった。それで、水絵の具によるプリテング、また写生会、遠足等の想画によって、その楽しさを味わってきた。しかし、まだその用材を使いこなせていない点が見られる。
- 人物、花、家等において、入学前の形に対する概念化がぬけきれずにいるが、いまはその概念を破り、観察と実感によって創造的なフォルムをつかませる段階にきているのではないかと思う。それで、既習のネンドによる空間認識を、描画の中の表現にまで高め、自分独得のフォルムをつかませたいものと思っている。
- こうして、テーマの発想を豊かにさせるとともに、自然発生的なカタログ的羅列構成の中の、時間、空間の混乱を整理し、さらに、上下、左右遠近の空間性の表現まで、その構成能力を高めたいと思う。

3. 指導のねらい

- 動物をみつめることによって、自分の感動をより充分あらわされるよう、主題の発想を豊かにし、またそれによって空間認識を高めていく。

4. 指導計画 (2時間)

- 発想を豊かにする話し合い、主題表現をする。.....1時間(本時)
- 主題を明確にし、その従属との構成を豊かに表現させる。.....1時間

5. 本時の指導

- ねらい ・動物のおもしろい生態が、よりよくあらわせるように、感じたままをいきいきと表現させたい。
- 準備 画用紙、水絵の具、パレット、かん、布きん、筆、ガパン

◦本時の展開

学 習 活 動	指 導 の 要 点
<ul style="list-style-type: none"> ① 主題の話し合い <ul style="list-style-type: none"> ・何のどんなところをかくか。 ② 描く <ul style="list-style-type: none"> ・描きたいものを、さき大きくかく。 ・そのまわりにあるものを考えてかく。 ・書こうと思ったものが、充分かけたか。 ③ 絵を見て話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・自分の描きたかったことを話す。 ・ねらいが、生き生きとあらわれているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・動物園を見たときの話し合いをし、かく意欲をかめる。 ・主題をはっきりさせ、ゆたかな表現をさせる。 ・机間巡視により、主題構成の個別指導をする。 ・主題がはっきりかけたか。 ・主題意識の高まりがあったかどうか。

学習指導案

札幌市立北九条小学校 2年
男 28名 女 20名

指導者 八田 貞

1. 題材 (デザイン) ならべてみよう

2. 題材観

この学級の児童は、2学年へ進級のとき、学級増のため分散編成された学級でまとまりはないが、素朴で創意にとんで想像力を持っているように感じられる。しかし、組織的に導かれていないため、造形要素的なものを、まとめる力を持っていない。

1学年のときは、描画の中でひとつずつはっきりした形でおこなうよう条件を与えて、デザイン的な指導を一応受けてきている。

2学年になったこの子たちは、ならべっこなどで、もようを作ることに関心や興味を持ちはじめ、直観的に色の美しい感じをとらえたり、もようの単位についても気づきはじめているので子どもの身近な生活の中から変ったテーマを選んで、学習する中に過形的な要素を組み入れ、うごきのあるもようを表現する初歩的な造形能力を養おうとするのである。

3. 指導のねらい

- 身近な生活の中から取材し、色の組み合わせを考えて、自由にもようを作る。
- ならべて見る中で、大小のバランスやリズムを知ることができる。

4. 指導計画 (3時間)

- 発想の場と色の計画を立てる.....1時間
- 形を作ってならべてみる.....1時間
- もようを作る.....1時間 (本時)

5. 本時の指導

- ねらい 大小のならべ方、うごき、色の組み合わせなどを工夫して、自由なもようにする。
- 準備 色画用紙、色紙、はさみ、のり

◦本時の展開

学 習 活 動	指 導 の 要 点
① ・前時学習の話し合い どんなもようにするか。	前時の計画を確認 お話を想起させ主題を定着させる。
② ・計画通りどんどんはっていき。	ねをしないで、おもしろくリズムのあるよう つくしい感じのならべ方を工夫する。 つまづいている子や、はっきりしない子ども にヒントを提示してやる。
③ ・作品について話し合う。 次時予告	作品を提示して製作上の苦心や反省を発表 させる。 提出とあとしまつ。

学習指導案

札幌市立北九条小学校 3年
男 23名 女 24名

指導者 江 副 文

1. 題材 (デザイン) ささえる工夫

2. 題材観

児童47名の中、2名の遅進児の他は普通児童で、平凡な学級である。図工教科では描画、粘土学習に関心があり、学習も意欲的である。クレパス、絵の具などを使って、用途を持たない平面デザインは過去に経験してきたが、立体的特に機能的なものについては、学習経験が浅い。しかし、プラモデルその他、学校外での立体造形に対する興味はある程度持っていると思われるので、要素をふるまえた学習を展開することは、学級の児童に、立体造形そのものに意欲を持たせ、意義を与えるものと考えられる。

3. 指導のねらい

- 紙の材質を生かし、独創的なアイデアから紙立体を表現することによって、デザインの能力を深める。
- 身のまわりの中から、自分が使うものを見つけることによって、製作意欲を高める。

4. 指導計画 (3時間)

- はがき大の紙をささえる工夫 } 2時間
- 身近なものに利用する } 2時間
- 紙コップをささえる工夫 1時間 (本時)

5. 本時の指導

- ねらい 紙材を使って丈夫なささえ方を創意工夫する。
- 準備 コップ、画用紙、セメダイン、はさみ、画板

◦本時の展開

学 習 活 動	指 導 要 素
◦前時の学習について話し合う。 ◦本時の学習について話し合う。	◦構想の心構えを深める。 ・造形要素をおさえる。 ◦むだのない創意を工夫させる。
◦紙立体を製作する。 ・紙による材質経験を深める。 ・ささえ方を工夫する。	◦机間巡視 ・既習学習の造形要素を生かす。 ・重さと丈夫さのバランス
◦できた作品について話し合う。	◦創造的なアイデア ・工夫した点と困難点。 ・どこにおき、何に使うか。
◦後始末	◦後片づけ

学習指導案

札幌市立北九条小学校 4 年
男 20 名 女 25 名

指導者 佐々木 理 温

1. 題 材 (描画) おもしろいお話 —共同製作—

2. 題 材 観

- 中学年のお話の絵による表現について意義が少ないとする向きもあるが、主題の選択力や豊かな構想力を養い表現の多様性が期待できるなどの点は、想像や幻想の媒体になるものについての考慮がなされるならもっと大切にされてよいと思われる。
- さらに共通な目標に向って分担や手順を相談させ、協力して一つの作品を作り上げる共同製作という仕事は、客観的なものの見方が芽生えてくるこの時期の子どもたち、かつ今年度学級分散をしまだ学級集団としてのまとまりに乏しく、造形的にも刺戟し合う場の経験が少ない本学級の子どもたちには、特に価値あるものと考えたい。

3. 指導のねらい

- 学級及びグループを意識した共同製作の意義を認識させる。
- 意図的に主題を選択する能力を高め、共同作だけが表現できる造形的なおもしろさに気づかせる。
- 主題追求に伴う色彩の破調を調和させる色彩感覚を養う。

4. 指導計画 (6 時間)

- お話を聞きイメージと構成の全体討議…………… 1 時間
- 構成のグループ討議と下絵かき…………… 1 時間
- イメージと色調の検討及び彩色…………… 1 時間 (本時%)
- 彩色と鑑賞…………… 2 時間
- 全体鑑賞…………… 1 時間

5. 本時の指導

- **ねらい** 色彩と感情の関係を考えることがより主題に迫る表現力となることに関心をもたせる。
- **準備** 水絵具用具一式、墨汁、わりペン、白ボール紙

○ 本時の展開

学 習 活 動	指 導 の 要 点
<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時のねらいをつかむ。 ・ グループごとのイメージと色調を発表する。 ・ 主題共通理解の場から、発表されたイメージと色調を全体で検討する。 ・ 彩色にかかる。 ・ おおまかに色面をわけて画面全体にわたり、まず主要な色面を配置する。 ・ 各色面の部分について細かく加色する。 ・ 特徴ある作品について、そのグループからの配色効果を聞き、次時の学習方向をつかむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前時との関連について確認させる。 ・ イメージの重点と表現のねらいをはっきりさせる。 ・ 主題に対する統一と変化を考えさせる。 ・ グループごとの主調色を決めさせる。 ・ グループ内での協力的彩色分担を配慮させる。 ・ 画面全体に目を配って彩色できるように注意する。 ・ 主体と従属、対比と類似など色彩の調和について興味をもたせる。 ・ 美しい配色とよい配色について気づかせる。

学習指導案

札幌市立北九条小学校 5 年
男 21 名 女 24 名

指導者 鈴木 政 信

1. 題 材 (工作) べんりなしかけ

2. 題 材 観

○ 題材設定の理由

しかけはどの子どもでも興味を持っているので、生活の中からアイデアをみつけさせ、機構的原理を応用することにより、独創的な造形活動の意欲を高めたい。

3. 指導のねらい

機構ということへの関心をのばすと共に創造能力を高める。

4. 指導計画 (5 時間)

- 自分が使う物で不都合はないか話し合う…………… 1 時間
- 作ろうと思うものを書いて設計図を書く…………… 1 時間
- 製作 テスト…………… 2 時間
- 組立 機能と構造の適合の話し合い…………… 1 時間 (本時)

5. 本時の指導

- **ねらい** 機構的な造形活動をさせることにより、リンク、クランク、てこ、ベルト、ひもによる媒介節の運動伝達機能とピン、シエル、ラーメン、トラス構造との適合条件の独創的立体構成能力を養う。
- **準備** 細木、板、針金、バネ、糸、ゴム、ベルト、車、木工具、接着剤その他

○ 本時の展開

学 習 活 動	指 導 の 要 点
<ul style="list-style-type: none"> ・ 機能と構造の適合条件の検討 ・ 適合の合理化と美的条件とを調和させる活動。 ・ 機構作品の評価 	<ul style="list-style-type: none"> ・ アイデアの独創性と構造の適合性をはかるため、媒介節による運動伝達と線材、板材による圧縮、引張り、接合構造との機能化をはかる。併せて機能美の条件を思考させる。 ・ 創意をそらした点の把握 ・ 更に改造される点の指摘 ・ 製作中の抵抗点の指摘

学習指導案

札幌市立北九条小学校 5 年

男 20 名 女 25 名

指導者 間ヶ敷 真佐子

1. 題材 (デザイン) わたしのおねがい

2. 題材観

いろいろなアイデアが浮んできても、表現力の乏しさのため、途中で制作意欲を失い、アイデアを十分生かすことのできないことが多い子どもたち。このような子どもたちに、身近な生活の中から題材を選び、機能的条件を与えることによって、計画的に興味を持って学習を進めながら表現力を養っていきたいと考えこの題材を選んできた。今後までには、機能性を持ったデザインとしては、平面的なものでは、ポスター・カレンダー・学級のおしらせ・立体的なものでは、つるす標識等を製作している。

3. 指導のねらい

- デザイン的構成力と色彩感覚の基礎能力を高める。
- 条件にあった伝える。使う機能を持った表現能力を養う。

4. 指導計画

- ねがいとアイデアの話し合い……………1時間
- 計画についての検討 } ……………2時間
- 構成と製作 }
- 色彩効果を考えた着色と表示と効果についての話し合い……………2時間(本時4分)

5. 本時の指導

- ねらい ・知らせるとい条件にあった効果的表現を工夫する。
- 準備 色研ワーク・セロファン・絵具・細木・針金・のり・はさみ

本時の展開

学 習 活 動	指 導 の 要 点
<ul style="list-style-type: none"> 本時の目標について話し合い 製作 <ul style="list-style-type: none"> 飾る場所と知らせる構造を考え合わせた配色と着色をする。 作品について話し合う <ul style="list-style-type: none"> 表示と効果を中心に批評し合う 	<ul style="list-style-type: none"> 前時の構造製作と本時目標の関連についてその計画を確認させる。 机間巡視 <ul style="list-style-type: none"> 場との調和, 知らせるための効果, 色彩の機能性など機能の適応性の認識と創意工夫について助言する。 工夫された点を把握させる。 表示条件にかなった表現をとり上げる。

学習指導案

札幌市立北九条小学校 6 年

男 26 名 女 21 名

指導者 佐藤 圭

1. 題材 (描画) 街で見えてきたところ

2. 題材観

- 空間の認識力, 表現能力は主題性と構想性, 構成力を高めることによって深めることができると思われるので, 児童に自由な主題を選択させることによって意欲的, 個性的な能力の伸びを期待したものである。
- 観察画的な写生画(いわゆる純然たる写生画でないかなり構想化された観察画)の過程を経て, その力を基礎においた構想画としての扱いである。
- 児童の造形活動と意欲は旺盛である。寒い雪の中に何時間も立ちつくして, 雪まつりの像をスケッチした何回も通いつめた児童が大部分であり, 観察力, 描写力等にはかなりの力を有している。(47名の児童中37年度46名, 38年度45名が子ども道展はじめ各児童美術展の入選入賞児童である。)

3. 指導のねらい

- 主題性の深まりと構想力をより一層伸ばすこと。
- 視点の定着化された空間認識性の高まりとともに
- 動勢を中心とした構成能力を高めてゆきたいと思う。

4. 指導計画

- (1) 現場でのスケッチ……………放課後街へ出て自由に
- (2) スケッチ帳から画用紙へ。…………(2時間) 主題構想を下書きし構成するための話し合いを含む。
- (3) 色彩で表現する前の話し合い…………(1時間)(本時) 下書きした画面を前にして イ主題性との関連についての構想はどうか ロそれが生きた構成になっているか ハ色彩構成はどう構想されているか, 児童の予想計画について
- (4) 色彩で描く…………(4時間)制作過程での話し合いを経て完成する。
- (5) 互いの作品をみながら感想を発表したり批評し合う…………(1時間)

5. 本時の指導

- ねらい 主題イメージの構想と構成の力(色彩構成も含めて)
- 準備 画用紙(白ボール下がきをしたもの)水絵具, パレット, 水入れ, わりばし, ペン筆, タンポ, 布, 等
- 本時の展開

学 習 活 動	指 導 の 要 点
<ul style="list-style-type: none"> 主題構想——構成についての話し合い 画面での主題の位置, 空間構成比より内容, 物と物の組合わせ, 対象の捕捉, 移動, 省略について, 登場するものの性格づけ。 色調について——主題性から構想 主調色 ・最も強調したい部分はどこ, 主体と従属 明暗の組合せ・アクセント・リズム感 相対的なものの総合された調和, 変化と統一 	<ul style="list-style-type: none"> 主題表現のために効果的な方法が工夫されたのは, 自然性に即した変化, 統一 画面に形態や空間の相殺関係はないか 基底線, 上下左右の空間構成比 視点の定着度の深度差によって主題の強調の度合が変ってくることに気づかせたい。 主題と色彩との関連について 自分の気持, 感じ方心意によるロマン性と場面のもつリアリティとの調和

学習指導案

札幌市立北九条小学校 6年

男 27名 女 21名

指導者 長谷川 真 正

1. 題 材 (デザイン・立体) <守ってほしいこと>

2. 題材観

- 6年生になると看護の立場から校舎内のいろいろなもので守ってほしいことの共通な願いがあり、その素朴な願いを造形学習による作品を通して生活の場に生かすことは、生活と造形学習の両面において意味があると考えたからである。
- 男子は一般に女子よりも工作的な学習は、工夫して喜んで作品を製作する。しかし女子は少し創造性がない。それで男女協力して立体デザインの作品を共同製作して、児童の造形的創造表現力を養いたい。
- 5年の時には、用途をもったデザインや知らせるデザインの感覚訓練や自由構成のデザインを学習、それとともなって色彩感覚と色彩配合の基礎的学習。

3. 指導のねらい

- 場の特性に適合した空間の機能と構造の能力
- 材質の特性を理解し、構造化する力
- 機構構造と機能性

4. 指導計画 (5時間)

- グループでどこにどんなものを取りつけたら良いか場の特性との関連において話し合い、下絵をかいてみる。……………1時間
- 骨組みをつくる。……………2時間
- 出来た骨組みに対してとりつける場所にふさわしい色の組み合わせ、文字の大きさなどを考えて仕上げる。……………1時間(本時)
- 完成作品を全体で現場にとりつけながら批評する。……………1時間

5. 本時の指導

ねらい 場所にふさわしく、美しく、目立つ色彩と文字の構成

準備 竹ヒゴ・棒材・セメダイン・軸木・きり・はさみ・ナイフ・小刀・色セロハン・色研ワーク・糸・輪ゴム。など

本時の展開

学 習 活 動	指 導 の 要 点
<ul style="list-style-type: none"> 前時の確認 場所の特性と骨組みの形との関連の確認 本時の目あて 各々きめられた標識についてその場所にふさわしい色や文字を考える。 グループ毎に話し合って考える。 各グループ毎の発表を全体の話し合いでまとめる。 各グループの制作 本時目標がどう作品の上に表われているか全体で話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 色数を少なくしてふさわしい色を考える。 台紙の色と文字の色とも関連して組み合わせを考える。 場面の特性と色彩感情との関連 色の組み合わせによる対比と調和 目立つことの視覚的な変化と統一

学習指導案

札幌市立北九条小学校 6年

男 26名 女 21名

指導者 坂本 晃 一

1. 題 材 <デザイン> 私達の旗

2. 題材観

- 旗の意義や必要性を理解し多くの人々に自分達の存在や特質を美しく効果的に知らせる。
- 色彩のもつ感情性を素直に受けとめかつ意図的に選択する。
- 集団としての意識やまとまりに欠け、ややもするとおとな的な感じのポスターを書く子ども達に、身近な題材として適している。
- デザインにおいて材質・構成・色彩に興味をもち、それを効果的に処理する能力や、事物の特質を把握し、造形的に表出する能力の発展を期待できる。

3. 指導のねらい

- 集団のもつ特質にそった色彩・色量を選択し、構成する能力を高める。
- 集団や事物の特質を象徴する能力を養う。
- 目的意識をもち既成の概念にとらわれることなく自由に考え出す能力をつける。

4. 指導の計画 (4時間)

- 話し合い
 - 旗の意義やグループの特質を象徴する外形や内容について……………1時間
 - 旗の内容《形・色・大きさなど》と組み合わせについて……………本時
 - 前時の継続作業と整理……………1時間
 - 製作後の感想・反省・作品の全体鑑賞……………1時間

5. 本時の指導

ねらい グループの象徴性をはっきりさせた美しい組み合わせを作る。

準備 布、色紙、小黒板、画鋏、はさみ、のり

本時の展開

学 習 活 動	指 導 の 要 点
<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習確認 グループ毎に内容や組み合わせを考える <ul style="list-style-type: none"> 話し合う デッサンする 切って張り張りする 発表する 批判検討する 補足・省略する 張る 次時予告 	<ul style="list-style-type: none"> 地色・外形と内容物との関係 強張したものを目立たせる グループの象徴性をはっきり出せるデザイン みんなでもっといいものを作ろうという意識 共通な問題点を引き出しグループ毎の問題解決を早める 色彩・色量の調和、バランス、リズムなどに留意した発言をする グループ毎の組別指導

学習指導案

札幌市立陵北中学校 1 年
男 24 名 女 24 名

指導者 千葉光男

1. 題材 案内文字をつくろう

(学校祭展示場案内のために)

2. 題材観

本校学校祭は生徒会の自主性を尊重し、各クラブ、学級等のあゆみを発表するものであり、二、三年生の展示計画、会場計画にもつぎ、この学年では展示場案内図を作る計画を立てている。

現代の生活においては宣伝、伝達、啓蒙などの活動が盛んであるが、学校祭を媒体として知らせるデザインを取り上げた。

3. 指導のねらい

- ・知らせるデザインの中で文字が持つ役割を知る。
- ・基本的な字体を知ると共に可読性の高い文字を造り得る力を養う。
- ・展示の目的、内容に合致したことは、文字を工夫させる。
- ・表現を通して文字の構成美について理解させる。

4. 指導計画 (6時間)

- ・学校祭計画案の検討……………1時間
- ・基本的な字体を調べる……………1時間
- ・目的や条件にあったことばと字体を考え文字をつくる……………2時間
- ・文字の色彩を設計させる……………1時間(本時)
- ・パネルに配置し完成させる……………1時間

5. 本時の指導

- ・ねらい 配色練習をもとにして効果的な配色をさせる。
- ・準備 画板、色紙、のり、はさみ、ものさし、ナイフ

・本時の展開

学 習 活 動	指 導 の 要 点
<ul style="list-style-type: none"> ・案内文字の置かれる環境を考えて読みやすい彩色をする。 ・三要素にもとづいて話し合う。 ・人目をひくための大きな文字の配色と、説明するための小さな文字の配色を話し合う。 ・制作する。 ・反省 <ul style="list-style-type: none"> ・グループで検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習の配色練習と関連をとりバランスがとれ、しかも変化のある配色をさせる。 ・明度は目だつための条件として大切なことを思い出させて利用させる。 (色の明示にもつじた機能配色) ・こりすぎて読みにくくしないようにさせる。 ・一字ずつが美しく彩色されているだけでなく文字相互の大きさ、間隔、書体などがつり合った配色にさせる。

学習指導案

札幌市立日章中学校 2 年
男 26 名 女 23 名

指導者 佐野千尋

1. 題材 〈デザイン〉 白と黒による平面の分割

2. 題材観

今日の美術教育が単に情操教育に役立つとか手先の技術的な訓練に止まるものでないことは言うまでもない。造形的な表現や鑑賞のつみかさねの中で人としてよりよい生活を創造していくための資質をつちかつていくことを目的としている。学習活動の場で想像をめぐらし、目を見はり、考え、手を動かしながら、そこに形成されていくものは、さまざまな生活の場面で、それぞれの立場で生活空間を美しく豊かなものにしていくとする敏感な感覚と意識と態度につながるものでありたい。

中学校の美術科における美術的デザインには、ポスター、パッケージ、表紙、マーク、文字、など具体的な題材があげられるが、その学習形態が「条件に適応させながら構想を計画的に表現していく」といういわゆるデザイン活動の一般的な過程をふんで進められるとしても、教育としての活動である限り、それが形式的に整っているとか、技術的に高度なものであることを目的とするものでないのは当然である。

生活と結びつくというデザインがおかれた位置を考えれば、「使って役にたつ」ということは最大の目的だが、教育としてのデザインを考えるときにそのことを最終の命題とするよりも、むしろ与えられたさまざまな条件(対社会的なものを含めて)と自分たちの生活との有機的な結びつきを考えたり、生活空間において、いかにそれを美しく合理的に処理していくかについて工夫し製作することにその意義を見つけたい。

ここにとりあげた題材は、美術的デザインとしてとりあげられている上記のような具体的なものでない。きめられた空間を限られた条件に従って線や面で分割していくといった基礎的なものである。与えられた条件の中で考え、工夫し、空間に美的な秩序を作りだしていくデザインという行為をその最も基本的な構造的な構造の中でとらえて生徒に活動させてみたい。この教材は指導の系列からみれば「色と形の基礎練習」に入るものものだが、そのとりあげた意図は上記のような判断によるものである。この学年ではすでに「構成美の研究」として、変化と統一、バランス、リズム、などについて基礎練習をしている。さらにここで線、面、というような抽象的な素材をある条件の中で組立てながら、その中で視覚的なバランス、軽重感、動感、方向感などについての感覚と、それを意図的に構成していく能力を養いたい。そしてこれ以後にとりくむ「身の周りのデザイン」という立体的なテーマに入る以前の段階としてこの題材を位置づけたい。

3. 指導のねらい

- ・平面を白と黒の面で分割する作業の中で、色による軽重感、面積感のちがいとさらにそれらに関連しながら視覚的なバランス、動感、方向感が有機的に変化していくことを学習させ、さらにそれらに対する感覚と空間を美しく構成する能力を養う。

4. 指導計画 〈題材の位置づけ〉

- ・構成美の研究〈変化と統一、バランス、リズム〉——6時間
- ・〈白と黒による平面の分割〉——1時間……………本時
- ・身のまわりのデザイン〈へやをかざる、整理のくふう〉——6時間
- ・本時の展開

学 習 活 動	指 導 の 要 点
<ul style="list-style-type: none"> ・白い面と黒い面とが与える軽重感、面積感などについて揭示物を中心にして話しあいながらそれ理解し感じとる。 ・白と黒の色面でその軽重感、面積感を考えながら四辺形を垂直に、水平に、斜めに分割し、バランス、動き、方向感などについて工夫する。 ・作例について見たり話しあったりする。 ・同一面積の白と黒の色面で四辺形を分割する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・直線で等面積に分割された四辺形とさらにそれを白と黒で分割した四辺形を比較し、白と黒が与える軽重感、面積感のちがいを感じとらせる。 ・斜めの分割には動き、ひっぱり、方向感などがあることなどのヒントを与える。 ・バランス、変化、統一などについて工夫させながら平面構成の作業を進めさせる。

・本時の評価

- ・異なる色面による軽重感、面積感のちがいを理解し感じとったか。
- ・それらに感連しながら視覚的なバランス、動感、方向感が有機的に変化していくことを理解し感じとったか。
- ・平面構成の作業を通じて空間を美しく構成していく能力が高められたか。

学習指導案

札幌市立北辰中学校 3年
男 26名 女 24名

指導者 鳥谷部 順一

1. 題材 〈デザイン〉 標識

2. 題材観

- 題材設定の理由……デザインの諸条件を総合的に考察して美的、合理的にまとめ上げていくこのような表現活動は、最終学年として必要であり、さらに身近な生活に役立てることは意義あるものと思います。
- 児童生徒観……対社会的な事柄に関心を示しつつある段階であり、特に商店街を環境にもつ生徒にとって興味あるものと思います。
- 指導の系列……(1) 立体構成(紙による)～4時間
(2) 配色練習(色の機能)～4時間
(3) 標識～4時間……本時50分
(4) 環境のデザイン～4時間
- 題材による能力の伸張……美しく機能的にデザインさせることによって構想を計画的に表現する能力を高めたい。

3. 指導のねらい

- 標識は、視覚言語、記号、シンボルとして現代生活では、ますます重要視されるようになっていきます。それは地域社会だけでなく学校生活の中でも必要なことで集団生活では標識によって行動するのが能率的である。これらのことを理解させ、校内の標識を計画的な作業を通してデザインさせ、学校の美化に役立てる。

4. 指導計画(4時間)

- 標識の機能の理解と学校内の標識についてのアイデア、スケッチ……………1時間(本時50分)
- アイデア・スケッチをもとにした標識の設計……………1時間
- 設計図をもとに模型を制作……………2時間

5. 本時の指導

- ねらい 標識の機能を理解させ、目的に合ったしかも新しいアイデアによるものを考え出す。
- 準備 (教師) 教科書、標識の作例、スケッチ用紙(生徒数)
(生徒) 教科書、標識についての資料、水彩絵具

◦ 本時の展開

学習指導	時間	指導の要点
導入 ・標識について話し合う	20分	◦ 生徒の集めた資料、教師の用意した作例などを参考にして、標識の機能について話し合う。 ・日常生活をスムーズに能率的にするとともに美しく快くする。 ・効果的な色や形を考える。
展開 ・標識のアイデアスケッチをする	20分	◦ 校内でのおく位置を考え、美しく、効果的な標識をデザインする。 ・目立って、見やすく、興味の引くようにする。 ・既製のものにとらわれず、各自のアイデアを生かした独創的なものをつくる。
整理 ・批評	10分	◦ スケッチを展示し、批評し合う。 ・独創的で美しい構成か ・標識の機能を十分に果しているか。 ◦ 次の学習についての予告

学習指導案

北海道札幌月寒高校 2年
男 10名 女 10名

指導者 教諭 中村 矢一

1. 題材 (デザイン) パネル製作

2. 題材観

題材設定の理由

創作と技術を通して自己体験をする。

児童生徒観

材料の抵抗を感じながらも興味を持続しているか。

指導の系列

具象的なものから単純化すること。

題材による能力の伸張

- ・原画の製作に当って、対象物をよく観察しているか。
- ・素材が変わると、効果も違うことを認めさせる。
- ・自由に材料をこなすことが出来ること。

指導の要点

- ・創作したものに各自が興味があるのか。
- ・材料を生かしているのか、工具の使用方法是どうか。
- ・表現に工夫したところがみられるか。

3. 指導のねらい

- 指導目標 新しい材料体験と独創的表現
- 特に指導を通して如何なる能力を開発するか、新しい素材に抵抗を感じながらも自己表現に徹する力を得る。

4. 指導計画 (6時間)

- $\frac{1.2}{6}$ フォルムの創作(ラフスケッチ)
- $\frac{3.4}{6}$ 原画作製(素材を与える)

5. 本時の指導

- ねらい
- 準備 銅板、タガネ、カナズチ、雑布
- 導入 前時間の創作したものを確かめよう。
- 展開 銅板に直接転写するタガネ等の道具でつけ或は木槌で打ち出す。
最後に定盤で裏側を平面に1台の上にはりつけ完成する。

学習指導案

北海道札幌北高等学校
男子 20 名
指導者 寺井 一 教

1. 題材 (デザイン) 包装

2. 題材観

生徒が日常もっとも多く目に入る包装を取り上げその商品に対する理解と共感を容易にする様多様な目的と機能を理解させる。

3. 指導のねらい

- 包装の機能について理解させ、機能的効果との関連性を考える能力を養う。

4. 指導計画 (8 時間)

- 包装の基本点について…………… 1 時間
- 機能面と視覚面の関連を考えアイデア・スケッチ及び粘土を使用して模型を作る。…… 2 時間 (本時)
- 模型を利用しながらレタリング…………… 1 時間
- 実際に材料を用いて制作…………… 3 時間
- 鑑賞…………… 1 時間

5. 本時の指導

アイデア・スケッチ及び模型 (1 教時)

- ねらい 実際に制作するための準備
- 準備 粘土・スケッチブック・参考資料

本時の展開

学 習 活 動	指 導 の 要 点
・機能面と視覚面を考え合せて・良いアイデアを見つけさせる。	・参考資料等にて話し合いを十分に利用する。
・アイデアと同時に粘土にて模型を作りながら、アイデア・スケッチをさせる。	・イメージを生かした創造的な発想を育てる。
・次時について知らせる。	・次時予告。

学習指導案

札幌市立桑園小学校特殊学級 男 5 名 女 3 名 (8) 計 21 名
札幌市立東小学校特殊学級 男 8 名 女 5 名 (13)

指導者 桑園小 野 本 醇
東 小 鈴木 益 江

1. 題材 (描画—円柱壁画)

街のようすや動物園をみんなで描こう。

2. 題材観

この子らの落ち入りやすい逃避的な造形表現は、円柱に変形された自由に廻転する壁面の上では、他の子どもの活動によって流動的に刺激され、この造形活動は壁面ではあるが個々の子どものなかで中広く行われると想定する。また動くものなどはこの教材で興味ある題材でもある。

3. 指導のねらい

- イ) 街のようすや動物園などの興味ある場面を自由に表現させる。
- ロ) 共同製作を通じて協調性を養う。
- ハ) 表現するよろこびを十分に味わせる。

4. 指導計画

- イ) ・街の観察 (交通を中心にして) }…………… 2 時間
・動物園の見学
- ロ) ・乗りもののちがいがい }…………… 2 時間
・動物のちがいがい
- ハ) ・乗りものや動物など円柱の壁面にたのしく表現する…………… 1 時間 (本時)

5. 本時の指導

- ねらい たのしく仲よく描く
表現の工夫
- 準備 円柱壁画 2 組 (2 グループ)
えのぐ・皿・ふで・バケツ (ふで洗い)
- 本時の展開

学 習 活 動	指 導 の 要 点
・本時の学習について話しあう。	・街のようすや動物園について話しあう。
・自由に色を選ばせ直接表現させる。	・円柱壁画が廻転することを知らせて、表現意欲を高め、充分活動できるよう心をくばる。
・出来上がった作品について話しあう	・仲よくたのしんで出来たかどうか。
・あとしまつ	・あとしまつをきちんとする。

□開 会 (10.00~10.30)

・開 会 の 辞

・接 拶

- ・第14回全道造形教育研究大会長 新 妻 勇 吉 清
- ・第9回造形教育センター全国大会長 川 村 浩 章
- ・北海道造形教育センター委員長 寺 井 信 一
- ・札幌市教育研究協議会長 藤 井 征 平

・祝 辞

・講 師 (紹 介)

・表 彰 式

・会場校研究のあゆみ発表

・日 程 連 絡

・閉 会 の 辞

・前全道造形教育連盟委員長 野 村 英 夫 氏

パネルディスカッション (10.30~12.00)

主 題 子どもの造形能力をどう捉え、どのように伸ばしたらよいか。

- ・司 会 札幌市立月寒中学校 佐 藤 哲 夫
- ・提 言 造形教育センター 川 村 浩 章
- 同 林 健 三
- 函館市立船見中学校 滝 村 虎 雄
- 追分町立追分小学校 池 本 良 三
- 札幌市立東小学校 金 井 秀 男

・このディスカッションを通じ、主題の意味するものを含みながら、その問題点と解決の道すじを明確にして行きたい。

道具と力

・討 議 の 柱

- ・われわれは造形教育を通じて子どもにどんな能力をつけるのか。
- ・子どもの造形能力を伸ばすためにわれわれはどうしなければならないか。
- ・子どもの造形能力を伸ばすための問題点。

・「主題や討議の柱には、内容と方法の問題だけが浮んでいて、本質にふれることが落着いている。教科の位置づけ……どんな人間を育てようとするのか、教科の日

標など……立場をはっきり……やはり本質を明かにしてかからないと、内容と方法がバラバラで一貫性に欠けるのではないか？」という疑議がありそうである。しかし今回は内容、方法を明らかにする角度から、本質を追究し、従来抽象的な本質論に流れたきらいがなきにしもあらず……ということから、はっきり具体的に教科の性格をつかみとりたいという意図に立っていると考えられる。

・パネルディスカッションでは結論を出すことをねらってはいない。全参加会員の御協力によって、問題点を抽出し、この研究大会の方向が明らかにされることを期待します。

混 乱 の 中 か ら ロ マ ン を

札幌市立東小学校 金 井 秀 男

いまの美術教育は、混乱していると、多くの人がいっている。なにか、どのように混乱しているのかと答えてくれる人が、すくない。たまに答える人ならば、
曰く 日本の教育全体が混乱している。
曰く 日本の社会全体が、混乱し、ゆがんでいる。
曰く いや、ひとり、ひとり違った思想をもったこの時代の反映だという。
混乱が、よって生れたものを、ぼくは知りたい。

美術教育の啓蒙の時代は、おわったといっている。啓蒙というからには、啓蒙されなかった時代があった訳なんだ。とすると、啓蒙されたものは、だれで、一体いまだどんなことをしているのだろうか。ぼくは知りたい。

混乱か、啓蒙後のひとりひとりが、なにかつかみとった上での異った思想の対立であるとしたら、こんなにたのしい時代は、ないと、ぼくは考える。

いまの絵は、デザインは、わからないということをよくきくが、わからないということは、わかっているものがあるんだが、それ以上わからないというのだろうか。わからないというのは、ぼくは、うそのような気がしてならない、だが、それは、どうだろう。

もし、いま、わかっているものがあるとしたら、それを、みんなに、わからあったり、たしかめあったりはできないものだろうか。ひとつのものをつくるのは、わかったものを、はきだして、汗とちえの中から生れてくるものだと思うのだが、どうだろう。

造形能力といった、教育学的研究用語の解明は、教育

力があるって思いやりの身の子供

熟語をだすことを、答えて、いそぐのではなく、子どもと生活をしていて、子どもの生き方から、どんなものが、わかった、かをみんなと話し合ってみることだと思ふし、おしえることは、なにかと、自分で納得したもの、を、だしあって、その中から、みんなの経験を秩序だてていくことが、いいと考えるんだが、どうだろうか。(カラをほしがるだけじゃ、ちょっと、さびしい)

・造形能力とはなにか、ということ、を、ちょっと、うまく、いいあらわすと、

・教師が、子どもの中に、ひそむ、無意識的な造形力を、意識の世界に、ひき出し、道を拓き、自分自身の内的観照に応じての創造を可能にする力、であり、それを体系化するという事は、力をそえることを予定する、ことだといえるが、これは、どうだろう。

・この造形能力を伸ばしてゆくには、なにはともあれ、ぼくたち自身が信頼と、周囲の人々との信用が、たかめられることだと思います。そこに、ぼくたちの精神の自立と、子どもたちの精神の自立があると考えるのです。

・ここに到って、混乱は、救われると考えるが、どうだろうか、あまりにも、ロマンチックだというでしょう。しかし、ロマンチックになることです。現実のちいさいことに、くよくよせずに、もっと、先の先のことを考えることだと思います。子どもが大きくなって、も責任のもつことをすることです。

また、ロマンチックとは、理想や夢を求めて現実から逃れようとするものでなく、現実を理想に引きあげようと、働きかける態度だからです。

No.	分科会	主 題	司 会 者	提 言 者
1	描画第1	描画指導の系統性をおさえ、子どもの造形能力をたしかめよう。	吉田 義晴(置戸小) 三谷 哲司(札幌付属中)	種市謙次郎(札幌発寒小)
2	描画第2		三上 悟(恵庭中) 辻 悦平(札幌西創成小)	富樫 貢平(札幌東栄中)
3	描画第3		諏訪 英雄(室蘭鶴崎中) 伊藤 鉄雄(札幌大谷地小)	太田 達雄(札幌陵陽中)
4	描画第4		後藤 庸也(札幌琴似小) 今野 隆二(稚内南中)	側瀬宇太郎(札幌月寒小)
5	描画第5		遠藤 未満(苫小牧東小) 斎藤 洪人(札幌幌東中)	中川 大三(札幌東北小) 佐藤 圭(札幌北九条小)
6	描画第6		石丸 雅晟(室蘭東園小) 土岐 禎次(札幌中島中)	金井 秀男(札幌東小)
7	版画第1	版画指導の系統性をおさえ、子どもの造形能力をたしかめよう。	木村 晴一(遠軽中) 一戸 信雄(滝川第三小)	橋本 富(札幌山鼻小)
8	版画第2		越田 一喜(函館千代田小) 新谷 純輔(札幌琴似中)	笹原 亮(札幌苗穂小)
9	彫塑第1	彫塑指導の系統性をおさえ、子どもの造形能力をたしかめよう。	佐藤 秀男(網走二中) 成田 一男(札幌豊平小)	芥木 果一(札幌啓明中)
10	彫塑第2		村 三郎(小樽手宮小) 森谷 一(歌志内中)	吉田 広仕(札幌陵北中)

描 画

描画指導の系統性をおさえ、
子供の造形能力をたしかめよう。

造形的に処理出来る力

一 要 旨

- 1 昨年度は系統性の問題について討議され、学習内容の系統表が作られたが、引続き今年度の主題設定とともに、造形の能力表を作成する方向へ発展した。(必要性の問題)
- 2 そこで、この学習内容の系統表と造形能力表から、特にこの分科会としては、描画の領域から見た指導の系統性をおさえ、能力や発達段階と両者の関係をたしかめ、さらにその活用としての指導はいかにあらなければならないかを、教材や表現上の問題から究明していきたい。
これを項目別にする
イ 小中高の学習内容の系統と能力表との関係をたしかめる。
ロ 描画の能力をこのようにおさえた時、空間把握や指導体系また評価の視点につながっているか
ハ このような能力をつけるにはいかなる教材(題材)が与えられなければならないか
ニ 描画指導上の諸問題
ホ さらに現場ではこの能力表を生かして使うに

は、どのような方向へ進めばよいのか
以上の点が考えられる。

二 造形能力について

造形能力とは何かと考えた時、「学習内容を習得すること」すなわち能力を得ることにもなると考えられ、能力は教育目標の具体的分析によって抽出され、学習活動や学習評価の基準ともなるものでなければならないのでないだろうか。

特に造形する力を限定して造形文法を身につける面から考えた時、造形文法(秩序)を教育(しげき)の働きによって(可能性)意識化させる。それが能力となるのでないかと考えた。

三 資 料

北海道小学校図画工作科教科課程(1962年)小中高の学習内容の系統表
造形能力表、作品、その他

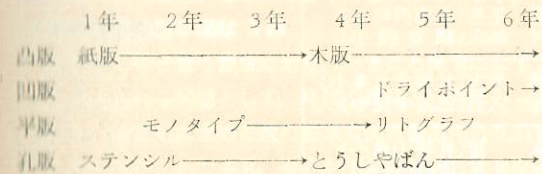
整理→計画

版 画

版画指導の系統性をおさえ、
子どもの造形能力をたしかめよう。

教育版画は、心象表現として、こどもの夢を育て、創造の喜びを味わうべきであるのに、いまだに単なる技術指導であったり、デザインの一部に終わっていることが多い。表現形式にしても、指導者の思いつきといったむきが多く、学習内容の系統とか、造形能力のたしかめが、はっきりされていない。

連盟では、昭和37年以来、「彫刻刀で描く絵」といった考え方で、その表現、版種についても、数多い窓口を整理して、おおよそ、下記のようにまとめた。



しかし、実際に指導してみると、いろいろの問題点が多く、特に、造形能力のたしかめが、あいまいであったので、この大会においては、特に、造形能力表を、示めし、学習内容の系統表と関係づけて、望ましい、版画の指導について、具体的に検討してもらうことにした。

- 上なる討議の柱をあげると、
- 1 版画学習教育の的意義をもう一度たしかめてみよう。(版画の独自性)
複数性—抵抗性—社会性—計画性—創造性

彫 塑

彫塑指導の系統性をおさえ、
子どもの造形能力をたしかめよう。

彫塑表現を造形活動の一領域として取り上げる意義は単に発達段階の上からの技法の意味のみで取り上げているのではないと思う。元来表現—材料との結びつきは特別なもので、他の材料でまに合う形のものであってはならないと思う。このことはどの領域についてもいえることであるが、特に児童生徒における彫塑表現においてこの点を強くおさえたいと思う。

このことは児童生徒における彫塑表現は、視覚と触覚を通して三次元的実体(量塊の軽重感、大小、方向と物質の粗密感、硬軟、光沢性、不透明性など)を媒介として、(三次元的)自己表現の手段として役立つものであり、特に(初等教育)においては、作品の技法的な完成とか、作品の保存とかなどを教師の側で意識的にとりあ

- 2 学習内容の系統と、造形能力との結びつきは、どうか。
- 3 造形能力を身につけるための、望ましい指導のあり方
(イ) 下絵の指導
○ 発想→すうどい見方や考え方
→印象の整理、省略(感動の深まり)
○ 計画
○ 画面構成
(ロ) 彫りの指導
○ 創造的な彫り方(思考、工夫、発見)
○ 材料に対する抵抗感
○ ほりすぎになりやすい(ためし刷り)
○ 用具の扱い方と工夫
(ハ) 刷りの指導
○ 技術がめんどうで、おろそかになり易い。
○ 材料(用紙、インキ)用具の扱い方と工夫
○ 中学へ進んで多色刷の指導
- 4 集団版画の意義と、方法について
要は、版画が、子どもの発達段階に即応して、系統づけられているかどうかを考えながら、版画でなければ、達成できない、独自の造形能力を、はっきりさせて、教育効果のあがる指導をおすすめてほしいものである。

げるときではなく、自由な表現活動の中に概念の開放こそ大きく取り上げるべきではないのだろうか。
そしてこの領域こそ、発達段階や造形能力発達の上で大きな問題となる。無意識的表現段階から意識的表現段階とよぶものへの橋渡しをスムーズになし得る学習領域であり、視覚型、非視覚型などといわれている。
表現上の相違なども活き活きと活動させ得る領域と思う。このことは教育上非常に大きな意味を持っており、表現への意欲の「停滞」を子防し、中学高校へと順次性を持って正しい発展へとみちびく大きな足がかりになる働きをはたすと思う。このような考え方の確認の上に立って、指導系統性をおさえ子どもの造形能力をたしかめていくべきではないのだろうか。

部 会 ・ 学校種別会 (13.00~16.00)
総合部会

No.	部 会	主 題	司 会 者	提 言 者
1	幼児父母	幼児の造形活動の現状をみつめて、その進め方を考えよう。	小山田 武(釧路柏木小) 荒木 アイ(札幌桑園小)	中居千枝子 (札幌こひつじ幼稚園)
2	中学校	美術の現状と対策(2・2・2問題の究明)	佐藤 哲夫(札幌月寒小) 但野 栄一(岩見沢東光中)	中川 清(札幌一条中)
4	高校	高校造形教育の現状とその対策	中村 矢一(札幌月寒高) 高橋 良助(札幌西高)	寺井 孜(札幌北高)
5	特殊教育	特殊教育における造形教育をどうすすめるか。	石川 ハル(札幌豊水小) 花田 吉朗(札幌一条中)	野本 醇(札幌桑園小)
5	単 複	小規模学校における造形教育の問題と打開策	高野 年男(余市沢町小) 中村 知久(網走西小)	蝦名 亮二(札幌小野幌小)
6	総合(A)	分科会のまとめ	高橋 栄吉(札幌北九条小) 遠藤 久男(三笠中央中)	
7	総合(B)	デザイン部会のまとめ	橋本 富(札幌山鼻小) 三上 享(鷹栖第一中)	

昨年の本大会での単複部会で、「単複校に於ける造形活動を活発にするにはどうしたらよいか」ということについて討議した結果

a 単複校の実態について

- 1 生活環境が単純で、子どもたちによびかける感動源がない。
- 2 子どもも父兄も、図工は勉強でないと考えている。したがってとかく学校でも行事などにつぶす傾向がある。
- 3 父兄は絵具材料など、経費のかかることをきらい、家庭に作業を持ち込むことをいやがる。
- 4 地域的に、辺りなどところにあるため研修の場がなく、かりにサークル員となってもなかなか参加出来ない。

b 単複校のカリキュラム

単複校に於いて、図工科ではほとんどの学校が、同時同教材によって指導されている。材料の準備や指導に便利であるが、教材が学年に適應しないし、とかく上学年の模倣となり、創造性をそこなっている。より系統的な指導をするため、カリキュラムや指導法について工夫する必要がある。

余市沢町小学校 高野年男

c 造形活動を活発にする方法

- 1 自分たちの生活をよくみつめ思考し、身近かの材料をとり上げて、地域にあった造形教育を考える必要がある。
- 2 専門技術がなくとも、図工に関心があればだれでも指導が出来る。そのためには次のような方法がある。
 - (イ) 展覧会などに出品し啓蒙する。
 - (ロ) 他校との絵の交流をする。
 - (ハ) 研究会などに積極的に参加する。
 - (ニ) 連盟などから、適当な指導者を派遣してもらう。

d 残された問題

- 1 単複、小中、高と別々に部会を持つてほしい。
- 2 単複部会は、造形学習の視野を広げるための研修を主体とした内容にしてほしい。
- 3 道内の半数以上もある単複校のために役立つカリキュラムを作成する必要がある。

一別以来一カ年、この間の実践を基に、改めて、問題を掘り起し、これの解決にあたりたい。

●幼児の造形活動の現状をみつめて、その進め方を考えよう。

提 言

札幌こひつじ幼稚園 中居千枝子

○積木やレンガを船にみだてたり床を海と思ったり、ダンボールでロボットを造り、子どもたちは創造豊かな世界で手、足、耳、目を活き活き働かせ大人がおもいつきそうもない世界で遊びます。そのような生活を通して、真白い画用紙に童心をなげかけます、そしてこの生活の中での美しいものをすなわち真実を見わける眼と心を手や足と言う皮膚感覚をとおして遊びの中で発見させ少しでも方向づけることが園の方針でもあり教師の態度でもあります。

○また保育計画が総合的に幼児の生活をくぐるような段階をおさえた配分がなされるように心がけています。

○園の造形教育の現状

市内住宅街と言う環境にあり、いまこる保育にたずさわり考えられる問題として、時代の流れと一言でいってよいか、子どもに求める親の要求も知育偏重になりがちで、手足はひよわで道具、遊具を十分に使いこなせない子ども、汚れが気になるのびのびと遊べなかったり、気

にかかることが多い。また保育形態から見ると始め自由形態で保育がされていたが人数増等のため時間割的な配分がなされおのずと幼児の造形活動の発展を中断するなど、また、安直に整理されすぎたきらいのある素材を与えガラクタ等でのびのび遊ばせることが足りない。おけいこ事で制約をうけてか、腕白ぶりがはつきできない。泥くさい遊びがすぎなのにもかかわらず、テレビの影響も遊びの中に顕著に現れています。

時代の流れの方向の真実を見わける眼と愛情に支えられた前向きの姿勢が教師に要求されていると思う。

○指導の実際から考察した問題(実際例あげ)

- 描画活動における助言の問題
- 素材のとらえ方与え方
- 教師の意図と幼児の発想、展開のくい違い
- 遊びや生活指導の上にもみられた効果
- 紐づくり、グループ学習からみられる問題

●美術科の現状と対策(2・2・2問題の究明)

札幌市立一条中学校 中川 清

- ④ 良心的な評価ができない。
- ⑤ 進度の調整もできない。
- ⑥ 美術科を軽視する傾向が強まる(生徒はなぜ一時間になったのか不思議でいる)

などの報告がなされ、指導の困難性を強くうたえている。

教科における指導の困難の重要さ、と同時にまた芸術関係の教科が「人間形成」に果たす役割はきわめて大きいはずである。まして「人づくり」が云々されている今日、美術教育は一そう重要性の認識の上に立たなければならぬ。義務教育の本質をゆがめず、人間が失われようとしている教育に対する、人間復興の呼び声として、また将来の日本文化を貧困にしないためにも、美術教育とはいかにあるべきなのか、義務教育の中で美術という教科のしめる位置はどうなのかを、多くの人々に理解してもらわなければならないと、ともに、現場教師の美術教育に対する自覚と熱意の如何をはっきりさせることだと思ふ。

私たち美術教育にたずさわるものの教育に対する認識の深さが強い反映となり、みんなの結集された熱意が、必ず2・2・2時間の定着となることを確信する。

今年に入って、全道の2・2・2確保の状況がどのようなことになっているのかは、まだ資料の集約に基づいて明らかには出ないが出ないが、昨年度までのアンケートの資料によれば、美術科週時間数の獲得状況は90%と推定はしている。しかし、その後の状況はかならずしも楽観はゆるされないのでないか。生徒数の減少に伴う定員問題、文部省学力テストの結果などのからみ合いなどもあって、複雑な悪条件のしわ寄せが美術科に向けられ、美術科が一そう困難な壁にぶつかることは目に見えている。

私たちがここ数年来2・2・2確保のためにつみ上げて来た運動は決して無駄なものではなかったし、その過程の中で多くのものを学び、また一そうの団結も強めてきた。文部省当局も一時間では困難な実情が理解されつつある。しかし理解されつつではなくて、認識され、2・2・2の確保が実現し、そして定着しなければならぬ。

一時間に削減されている現場からは……

- ① 美術科の本質を失う。(散漫な人間をつくることの懸念)
- ② 授業が成立しない。(効果があがらない)
- ③ カリキュラムがこなせない。(やらねばならないものがやれない)

●高校における造形教育の現状とその対策

北海道札幌北高等学校 寺井 孜

11回 滝川大会

- ① この時高校における教科課程の改訂草案が計画されていたので問題は芸術科の履修をどのように位置付けるか、それらを話し合い望ましい案をつくり連盟を通して道教委に要望する、また望ましい案を各校に持ち帰り現場で芸術科を希望している生徒が選択できるようにカリキュラム委員会で発言することを約束する。

12回 名寄大会

- ① 新教科課程が各学校においてどのように立案されたか資料をもちよる。11回大会の効果が現われていたといえる。また地方と都市の芸術科の扱いが異なる。
- ② 指導主事配置の問題として美術科だけではなく、芸術科として道教委に主事がいないことが芸術科の位置づけ芸術科教師の連絡などに困難点があるのではないかと話し合いになり連盟を通して道教委に要望することを決める。(37.12中旬連盟として道教委に要望書提出結果は努力するとのことであった)
- ③ 高校美術課程設置の問題、これは全国的にみて北海道にも必要でないか、芸術科向上の一役を担うものであるから実現したい提案があり具体的なもの、今後の研究課題とする。(連盟として要望書を提出した折指導主事の耳に入れておいた、またこれと同じく音楽課程の設置は相当具体的なものに発展していることを書き留めておく)

13回 余市大会

- ① 前大会の話し合い

- ② 高校美術課程の問題について音楽課程の経過等を報告して今後の研究方針等の討議をする。

- ③ 生徒作品発表について道内における公務形式の展示会を紹介し生徒に意欲をもたせる。

上記が過去数年間にわたる本大会で討議されたことがらである。なおこの記録以前の大会も記録が不明なため、確認できないが内容は大体同一と判断している。

・提 言

上記記録にもある通り種々話し合いされて来たけれども参加者数また時間的な面で十分とまで行っていなかった点もあるが、今後数年後に行なわれると思われる教科課程の更新も考え合せる時、次の点について本大会では討議してみたい。

- ① 参加者数について
とくに高校の場合複雑なものが各校にあるのではないか？ その解決法。
- ② 現行のカリキュラムについて。
38年度より実施されているカリキュラムも各校において変更の面が出て来ているか。また家庭科との関連について。
- ③ 全道組織について。
本年度あたりから具体的に進める実際案の討議。
- ④ 全国との関連について。
とくに北海道という地理的条件その他を考慮している場合高校造形教育に大きな障害となっているものがあるのではないだろうか、上記の問題点以外についても討議してみたい。自主的な研究の充実と横のつながりが要望される。

●特殊教育における造形教育を、どうすすめたらいいか

札幌市立桑園小学校 野本 醇

・子どものこと

「イロダ」「イロダ」「ワーイー」「ドーシテコンナ
ニイロガアルノセンセイ」「コレハレモンデコレハイチ
イダコレハコーヒーデ……」「アッイロミズゴッコシテ
イイカイ」「アマイゾー」「アレッホントニノンダ
ヨ」「ドクダゾーシヌンダヨ」「フクニミドリガツイタ
カアサンニシカラレル」「カアサンコレキレイダカラ
100ニンダヨネエ」「センセイッテワカラナイノネエ
」

・先生のこと

この教育に少しづつではあるが陽が当りはじめた。それは、特殊教育が一教師の手から教師全般の教育の問題として考えられて来たからである。かつて、個々の特殊学級(学校)の教師にこの子たちの教育の責任はゆだねられ、成功してもまた失敗しても自分の身にすべて返って来たといっても過言ではなかった。

しかし、教育の近代化は、この教育を科学化し、体系化することによって、集団化し、一般化されて少しづつではあるが特殊教育と名の下に集められ高く太りつつあるのが現状である。

・造形のこと

この子たちの知的能力に比しての情的能力の面は、一般的にいって、知能ほどの遅れや停滞がみられないのが普通である。この子たちだって、よるこびに満ちあふ

れ、悲しみ苦しみにたえ、美しいものに心ずる感動は、普通児童に比して決しておとるものではない。

それゆえに、この子らの美しい特性である素直さや正直さ等……人びとに愛される面を多くもっているのである。

ただ、その表現は、断片的であり、平面的であり、不器用なために、その子のよほどの理解者を得ている場合はともかく、多くの場合ゆがめられた受けとられ方をし、そのためのさまざまなコンプレックスを生みだしている場合も多いといわなければならない。

・もんだいのこと

この子らの造形開拓の面は、特殊教育の中で広い分野と応用面をもち、欠くことのできない重要な教育でもある。

- ・情緒の面(心理)
- ・理解の面(知能)
- ・技術の面(訓練)
- ・発達段階(成長)

四分野に分けた中での特殊教育の造形教育の役割はどうあるべきか、問題も多いと考えられる。

- ・特殊教育のなかで造形教育をどのようにとらまえたらいいか
- ・造形教育はどのようなかたちで指導されているのだろうか
- ・造形教育はこの子たちにどのような影響を与えるであらうか

小規模学校における造形教育の問題点は多々あること
 と思います。

小規模学校なるがゆえの悩み——これは本道の場合と
 くに大勢の先生方が日夜心を痛めていられることです。

ただ一人一人の先生方が、一人ずつ悩まれているだけ
 でなく、悩みをもった先生方が大勢集まり、それらを持
 ち寄って、たくさんの方でそれを考え、何らかの解決の
 糸口を見つけない、そういう話し合いにしたいと思うの
 です。

小規模学校における造形教育の問題を大きく、父兄・
 児童・学校・教師と四つに分けて考えてみました。

1 父母の問題

- ・情操教育に対する考え方の悩み
 「百姓の子が——」といった考え方
 教材費の徴集
 課外作業
 評定

2 児童の問題

- ・生活環境が単純であるため生活経験が浅い
 独創的な面に欠ける
 発展性に乏しい
 造形感覚が乏しい

視覚的板紙 心理的板紙

板紙とは 計画時・実行時

新しい教材に対する適応性の不足

3 学校の問題

- ・設備の悩み
 作業場がない
 器具、道具等が不備
- ・授業の悩み
 学年差の問題
 配当時数の違い
 作業速度
 同間異題材
 教材購入の問題
 工作ができない
- ・教育課程編成等の悩み
 領域別のおさえ方
 学年差による配当時数
 題材の選定

4 教師の問題

- ・校務の多忙による悩み
 教材研究の不足
 各種研究会、講習会等への参加不能
 真の造形活動ができない
- ・僻地なるがゆえの悩み
 自己研修の隘路

1 25-29.5.12-12.10
 2 内容説明
 3 7-7.生活報告

主 題	子どものデザインとはなにか			
司 会	提 言	言	表	発 表
札幌市立一条小学校 土門 孝	①基礎デザイン	造形教育センター	佐藤 諒	北海道学芸大学札幌分校 森川 照夫
札幌市立東園小学校 伊藤 恵	②機能デザイン	同	大和屋 巖	・札幌市立北九条小学校 佐々木理温
造形教育センター 坪内 千種	③視覚デザイン	同	米倉 正弘	
	④装 飾	同	藤沢 典明	
	⑤こどもデザイン	同	林 健造	

●主体的参加、主体的受けとめを

札幌市立一条中学校 土門 孝

司会についての考え

造形センターのお歴々が6人提言して、それぞれの角
 度から、そのジャンルでの主張を投げかける。よく教育
 ではなにかにつけて、その主体性が問われることが多い
 が、この口八丁手八丁の方々の主張はさぞかしにぎやか
 なもの、おもしろいもの(失礼)になるだろうと私は期
 待しています。

だが、この方々に一々ごもっともと拝聴するような参
 加の仕方は、日ごろやかましく学習の主体性を論じてい
 らっしゃる参会者諸先生には必ずしも満足される参加の
 場ではないでしょう。私は柄にもなく司会者をやらされ
 るわけですが、無理に急いで結論づけたいと考えていま
 せん。一々きいていたが結論がなかったなどがっかり
 するまえに、結論をつかむものが私たち自身であることを
 はっきりさせましょう。主張のプロセスを判断して、
 そうだ。そう思えないがないと、結論はつかめない。結
 論だけ受取ろうからは何も生まれないでしょう。また
 私は教育の問題が一々割り切れては、たまったもので
 ないと思ってもいます。きかされたら主体的に受けとめ
 しましょう。

参会者の現場問題から掘り起こした素朴なものでも勇
 敢に出しましょう。司会者が交通整理できなくなり、う
 ろちょろするようなものになったら、私はうまくいった
 と思うにちがいないからです。それでまとまったものな
 ったら、それは価値をもつとめだと思えます。なん
 どもかでもまとめていく司会者はやりたくない、こんな
 風で考えています。ついでにもうちょい妄言一つ二つ書
 かせてください。

幼児のデザインって一体あるものか、ないものか。

こんなことを電車の中なんかでふっと考えてみていま
 す。幼児のかきなぐりやぐるぐるびきを、先生といわれ
 る人たちはやたらに感心したり、一大発見したかのよう

にさわぐ。そういう私もその一人ですが。これは一体画
 なのか、デザインなのか、全く別なものなのか？

またこの奔放自在のものが小学校に入るとどうしてあ
 んなたいくつなくなり返しようになるのか？ ことに中
 学校になるとあんな機械的な感動のないべた塗り分割を
 するようになるのか？ もう子どもが不在になってしまう
 のです。学校のデザインには中学年以上は児童・生徒
 はいるがかんじんの子どもがいない。子どもの発達段階
 とはおもしろくなる段階ということなのだろうか。
 デザイン教育のあり方がこの月なみ化に拍車をかけてい
 はしまいか？ などと思っています。

夢のあるデザインを期待するのは無理なのか。

また天馬空をゆくような発想は、どんなデザイン教育
 をすれば可能になるのだろうか。夢のあるデザインをや
 らせたいが、例えば虹のかけ橋のデザイン、なまけ者天
 国の設計なんてものをね——実際に実現させることの現
 在できないデザインを、図にひいたりなんてことはデザ
 イン教育のジャンルからはみ出しているものだろうか。
 ひからびた合目的性をもたせなければ中学の子どものデ
 ザインにはならないのだろうか？

また文部省のいう「美術的デザイン」という言葉もわ
 かるようでわからないことの一つです。工的条件の高い
 ものやドリムデザインを除いたものだとして説明していなが
 ら、「デザイン」はかいてあるが「美術デザイン」を本
 質的に説明していない。美しくなくてよいデザインがど
 こかに存在しているような感をだかせる。なんだかご便
 宜主義のおいがする。

とりとめもないことを書きましたが、素朴に、根本的
 な問題に出発して、造形の基礎としてのこどものデザ
 インはどうあるべきものなのか。またこの上部構造に当
 るこどものデザインとはどんな姿をとることがのぞましい
 のか。その指導はどうすればよいのかなどをおたがいに
 さぐり求めていきたいと私はねがっています。

●基礎的造形活動

造形感覚を高めるための諸練習や、心情表現や用途をもつ造形をする際に、それらの造形の基礎になると考えられる諸活動である。

基礎的造形活動というと、子どもの生活には無縁なものであるとか、無機的な高度なものであると考えられがちであるが、実際には、内容の程度に差異はあれ、ごく幼い子どもの活動から、高度な技術を要する専門教育まで、巾広くこの中に含まれる。

基礎的造形活動には、発想を豊かにし、表現の可能性をたしかめるといった遊びのようなものから、色の取り合わせとその効果、大小・強弱・繰り返しなどによるリズムの快感、静動、対称、比例などのバランスの感覚、粗滑・硬軟・乾湿など触覚的な快感など、視覚的效果を主にした主にした造形活動と、材料や技術に対する経験を深め、造形の手段や方法をくふうさせ、合理的な構造を作るといった、材料・構造など機能的な効果を主にす

●視覚伝達

児童の場合、その造形的表現（視覚的表現）を伝達のための表現と解釈するのが正しいか否かについての問題はあろう。Designeが児童にはできないという説もあるからである。

しかし、さまざまな意味で人間は社会的動物であり、またそのために人類の文化が、他の動物と異って、短期間に非常な進歩をとげたというのも真実らしい。

したがって、児童の場合でも、その自己表現の中には、既に多分に伝達のための要素が見られるのではあるまいか。

そしてそれは、新しい時代の新しいことばとして巾をもちながらもより適確に、指導されるべきものではあるまいか。

造形教育センター 佐藤 諒

るものがある。

色彩についての学習は、かなり研究が進んでいるようであるが、それが単なる理解事項としてでなく、子どもの生活に密着して色彩感覚を発展させることが大切であろう。

また、構造に対する感覚は、感情のままに組み立てるといったものではなく、どうすれば美しく丈夫な構造が得られるかといった、合理的な思考が伴わねばならない。低学年の「どうすれば、立つか、ひっくりかえらぬか、高くなるか、つぶれぬか」といった遊びの中にもこのような意味あいが含まれている。

基礎的な造形活動での問題点は、子どもの表現や諸活動が、有機的な統一体としてなされるものであり、これらの基礎的造形活動が、どのような関連に於て、諸活動の中に包含させ、融和させ、より造形活動を助長させることができるかということである。

造形教育センター 米倉正弘

人間や、芸術そのものはそう短期間に変るものではないが、人間がそして芸術がよって立つべき現実が加速度的に変化しつつある。(科学の進歩)

この現実の中であって、新しい要素によって組み立てられる造形物は、好む好まざるにかかわらずわれわれの生活に介入している。

このような意味から考えると造形的表現の全領域にあたって、伝達のための機能が要求されてくるのではあるまいか。

そして、特にそのための教材が、正しい姿で扱われなければならないものと思われる。それは古い型の芸術教育のためよりも、新しい時代の生活のために考えられる教材になりはしまいか。

●地に爪跡をのこせ (造形教育センターの未来につながる使命観)

造形教育センター 林 健造

であるともだれ一人思っていない筈である。

すばらしいといわれる美術教育は、前額部だけで考えられたり、手先だけで作られたりしているような不安感はないだろうか。

われわれの足は地についているのだろうか、われわれの叫びは魂をゆきぶり、全身をあげひろげて子どもを受とめているのだろうか。

近代は最早、一人孤城に籠り、ドグマを主張する時代ではない。同志が力と頭脳をもちよりのたしかめあうことが、よりのたしかかな合理と進歩を形成していくことを自覚する時代だ。

われわれの使命は、子どもたちのために、「本物の造形教育とは何か、！」を樹立することなのだ。同志は、各々、その一点に己れの生甲斐を見、地に爪跡をのこす意義の大ききを知っている。

そのいみで、センターは今まさに生きている。回転している。何年かかってもこのことだけはきわめていかなければ死ねまい。

私たちが、今度まわってきたヨーロッパの国々が異口同音に「日本の子どもの絵はすばらしい」という讃辞を与えてくれたことは事実である。

ある時は、それが子どもの絵をいっていることもあるが、ウインなどでは美術教育がすばらしいといってくれているので、照れくさいようで、胸をはりたいようで変な気持ちがあった。

確かにそれはここ数十年の間に大きな進歩をしたように思う。しかしわれわれが進歩的美術教育の方向に舵をとったということは、もとをただせば、そのウインのチルベック先生の教えに従ったものだったのである。

造形教育センターは、デザイン教育のみならず、子どもの造形という本質的に広い視野に立って、この進歩的美術教育の一翼をになって、確かに大きな貢献をしてきた。

その同志は、ヨーロッパの世評がどうあろうと軽卒に雷同する型ではない。それ故に、センターでは教祖やボスが育たない。

センターが未完成であることも、今日の歩み方が満足

●デザイン学習と装飾

デザイン学習における視覚伝達、機能造形、基礎学習の三つについては、センターの夏の研究会で3年にわたって「子どものデザインの確立」と銘うって研究が続けられてきた。しかしそれらの研究を推し進めていく過程で、装飾とデザインという問題にぶつかってきたのである。つまり、今まで私たちはデザイン学習をあまりにも造形的にまとめるという方向に主眼をおいてきたように思える。だが、子どものデザインを考えた場合、はたしてそれがよいだろうかという問題なのである。

色々な造形言語と造形文法の駆使によって造形的に統合することのみにデザイン学習の目標を持つことは、やや近視眼的であろう。

装飾的なものも、目的なもの以外に、よりよい装飾性というものが考えられる。

命分なものである、単に表面の飾に終ってしまったり過剰になって機能的な美しさを阻害してしまうという

造形教育センター 藤沢典明

見方はデザイン学習にあまりにもきびしい表現を求め過ぎる批判と言ってよい。

大人のデザインならばいざ知らず、子どものデザインである以上、子どもの内側に慾求として内在している、装飾的本能については、もっと取り上げられてよいだろう。

用に結びつけて考えて見ても造形的にまとめたものよりも、デコラチーブであることが返って使えるということもある。

必要な目的に沿う装飾であることは決して否定される問題でなく、むしろ機能性、伝達性ととも、もう一つ子どもの装飾性ということも含めて造形性の問題を考えるべきであろう。

以上のようなことがセンターで取り上げられ議論されたが、今年の研究会でもぜひこの問題を研究討議し発展させていきたいと思う。

「子どものデザイン」それは「子どもの絵」のようにまだ子供自身のものになっていない。指導者もまた不安と疑問の中で明確におさえていない実情である。

子どもの構成力はどうなっているのか。適応造形力は、条件を克服する度合は、材料の処理力、計画する能力、表現の技術、そして形態のとらえ方は、どういう段階を経ているのか、その基礎研究は未開拓なところばかりである。

昭和31年、札幌市で行なわれた第9回全国図工大会に「材料の抵抗に関する調査」を発表して以来、札幌市図工研究部では、子どもの実態の上に立って、図工教育をどうおし進めていったらよいか。日々の実践を通して考えてきた。

すなわち、一昨年は「人物画の能力調査（形の認識及び関係構成しらべ）」と「デザインの能力調査（線と面の構成しらべ）」であり、昨年は「色彩の好嫌から配色しらべ」と「立体構成能力調査」とその発想製作過程、結果がわかるように調査してきた。

ここにその一端である「紙のつみ上げの調査から、その指導のあり方」にしぼって御指導、御批判をいただきたい。

1 問題「10cmの正方形の台紙の上に、3cmの正方形の画用紙を使って、倒れないように高い塔を作りなさい」と接着剤は赤セメダインで時間は30分としぼって、市内の児童2,107名を対象に調査した。

2 使用枚数と高さは、およそ学年が進むにしたがって増加したが、予想したよりもはるかに枚数を多く使用していた。全学年の平均が一段（高さ3cm）を積むのに4・9枚である。

「どう組み立てるか」という思考が欠け、ただ倒れるのを防ぐ方法にばかり力を入れていることが解った。

3 積み上げの型は、立方体に囲んでいく方法が一番多くとられ、二枚を平行に立てて倒れていく型が多いのと対象的であった。

4 接着剤の使用練習をした学級との差は、使用枚数だけは多くさせたが、必ずしも高さには変化が見られなかった。つまり接着技術は、それ程影響を与えていないことがわかる。

5 積み方について、ある程度考えさせた学級との差はどうであったかを調べてみると、使用枚数は同じであるのに、高さは10cm程高くなり、そこにあらわれた積む型は、V型・T型があらわれている。

以上の子どもの調査から、デザイン学習の指導面に役立つものが、多く考えさせられた。

そのなかから、2, 3ひろってみると、

- ① 題材のあたえ方の再検討
 - ・教師がねらいを確実につかむ
 - ・教えること、思考させること、自己表現させることを明確にする。
- ② 授業の流れを研究
 - ・導入面（抵抗の与え方）の工夫
 - ・教師の助言ヒントの与え方
 - ・子どもの思考、創造が望ましい方向にいく工夫
- ③ 基礎的な構成練習との関連

しかし、まだまだ問題をはらんでいる。

子どものデザインは、条件つきの創造である。この条件の範囲内で、最大限に思考し自己表現するものであって、それが将来の生活を造形的に改善していく意欲をセンスを身につけて欲しいものだ、日頃から念願しているひとりである。

と必要感を基盤とした自己表現的な学習内容を系統づけていくものでありたいと願った。

学習の場を求めて実践案を

飾る（基礎造形）、知らせる（視覚伝達）、使う（機能造形）の造形活動の具体化は、生活する子どものイメージということから発達段階による生活圏のおさえにはじまり、昨年一応の系統実践案が学校家庭の二つの場の方向から北九条カリキュラムとして誕生した。日常学習の中で卒業展の中でそしてこの研究会でも縁の下力もちとなる系統実践案が、創造力のある子どもによって色あせ泥だらけになる日の近いことを信じて疑わない。

・系統実践案（構造的なものは除く）

学年	生活圏	心身状態	造形要素、秩序	題材例
1年	わたし	じぶん 勝手	素朴なられつ 色ならべ	・ぼくのしるし ・わたしの旗 ・おめん ・すぎなたべもの ・わたしのたな
2年	わたしと人のうち	おせつ かい干渉	やや複合化 ならべ方の工夫	・やくそくのしるし ・わたしのペット ・わたしのうちはここ ・なかまのしるし ・うちの人へのねがい
3年	わたしとなかま	グループの中 のわたし	点線面のあつまり 意図的 図的様式化	・たんじょう日のカード ・なかまにしらせる ・ひみつの場所 ・ぼくのゆきさき ・きれいな部屋
4年	わたしの学級	なかまのおきて	デフォルメ くりかえしのリズム	・チームの旗 ・なかまのきめた記号 ・なかまの応援旗 ・なかまの服装 ・掲示版のかざり
5年	わたしの学年	学級の中のわたし	テクスチャ ムーブマン 分割 目的 構造	・児童会のおしらせ ・全校の批書函 ・学校の掲示 ・遠足のしるし ・来客への案内
6年	わたしの学校	価値をもつわたし	単純化 象徴的表出 機能 フォルムの発見 形成	・校外班の旗 ・学校への要望 ・おじさんたちへ ・給食室のおばさんへ ・場所のきまり

まざぐりの歩みながら

北九条のデザイン教育が、子どもの遊びから、子どもの心象から、子どもの生活からと、子どもらしい新鮮な発想をよりどころに意識的な再発想をしたのは、六年前「創造性を豊かにする教科指導」をテーマとした継続研究が緒についたときからであった。当時の図工テーマ「デザイン能力を養うための立体構成の指導」はデザインの独創力を立体構成学習から主に与える条件とそれに適応する創造的な思考の過程を、分析的に考察しようと試みたものであった。それは更に、材料と生活の対決において子どもの生活適応に独創性の必要を経験させ、材料への追求は構成、形成、機能性への配慮を余儀なくされることに気づくとともに、デザイン能力の基礎指導として立体構成能力を要素的に分析して視角を拡大させなければ、基礎力としてのデザイン能力へ直結した展開となり得ないことに見解の一致をみるに至った。次のテーマ「構成能力を高めるための指導」は以上の背景から発展したものである。立体デザインの発想そのものは子どもの人間的矛盾からはじまり、その生活条件の中から具体的独自性をもつデザインが生まれるものでなければならぬ。そしてその構成は既成のデザインにとらわれず、素直にかくありたいものを作り出すものであり、その視点は形成と機能及びその相関的調和の状態をみつめるところから生まれてこなければならないとの考えに立った。

造形教育センターに近づいて

ここまでの歩みは「子どものデザイン」という立場から、デザイン教育の具体的諸問題として基礎造形視覚伝達機能造形の三活動分野から究明を続けていた。造形教育センターの考え方と本質的な面でも共鳴するところがあり自信をおぼえた。子どもの生活の切実感から出る問題に子どもなり造形体験を通しての解決方法を見出すことは、子どもをしてデザイン生活をなし得たことの喜びを感じさせ、身辺をデザイン化する能力を身につけさせるものといえる。これは教育という面からの子どもの社会生活力の大切な要因となるものであり、「子どものデザイン」という考え方の主軸をなすものであろう。形式的な子どもの感情生活、造形感覚のとらえ方では、現実の子どもの中にある創造的欲求を切実な欲求として探り当てることができないのは明らかである。生活する子どものイメージを具体的にえがきだすことが、子どもの興味

昭和34年から本年まで6年間にわたる本校の創造教育は、年度を重ねるごとに教科学習における研究の視点をこどもの認識を基礎とした再発見の学習過程において、感性的認識と、理性的認識との調和的発達を促進し、文化財とこどもの生活経験との対決に即応した指導の能率化と、現代の社会構造を背景とする生きた学力の向上を図って来たのである。

こどもたちの創造力は、教科の独自性をふまえた上に築かれてきたことは勿論であるが、教科における教材構造は、こどもの現在性に立つ生活の場に密着した視点を重視し再構成されて教育課程を編成していることである。

すなわち、こどもの生活圏の中に、生きる教科学習でなければ、こどもの主体的立場に立つ自己の内的外的条件には適合しないし、こどもの真の理解なり、感性を伸ばすゆえんにはならないと考えているのである。6年間の本校創造教育は、したがって、教科学習を基幹とする理性と感性とが、次第に、学校行事、生活指導など、いわゆる四領域にその力を発揮してゆくように組み立てられているわけである。

造形教育における感性的認識も、理性的認識との調和的発達において、こどもの生活の場から、心象の世界と機能の世界を把握し、生活空間とこども自身のイメージやアイデアの豊かな交流を活発にし、系統的指導によって、表現の造形能力を常に実証の裏付けに立って、進めてきたのである。造形能力の基礎調査も全校的に行ないつつ、カリキュラムの再構成を逐年重ねてきたが、未だ造形能力の伸びは、まだまだの感を深くするのである。

さて、本校の造形教育の経営において、一言ふれてみたい。

小学校における造形教育には、学級担任をその指導の中核とし、よりよくこどもの個性や生活の実態を知っている指導者が一番大切にされるべきであるという信念を堅持して来たつもりである。従って、図工研究部は、その担任に指導上の問題点や方向あるいは大きな美術教育の流れ、あるいは研究視点、指導の参考資料を提供し、指導の実態をよりよく解明し得る側面的援助者の立場をとって来たのである。作品の評価も、その指導過程における目的を重要視し、造形能力のポイントが定着し、蓄積されてゆく点を重要視し、校内の掲示においても、個々のこどもたちの自己評価、学級の相対評価、各学級担任の学年的発展性の評価眼を養うことを眼目として来た。幾多の過去10年間における全道、全国の各種展覧会において、受賞された学校賞も、各学級の総合された成果であり、30学級のきわめて平常授業における発表のすがたに他ならない。特別な主義思潮に偏することなく、こどもたちの伸びと、その実態を見つめた場合に、それらの主張は、生かすべきは生かし、捨てるべきは捨て、まず批判して、慎重に、現場指導に臨む態度をとって来たのである。したがって本校の学習成果は、学級によって表現も全部異なり、学級内のこどもたちもそれぞれまた、特異な、描画、デザインの表現に多様性が出ているようである。技術指導については、用具、用材の扱い方

を指導し、イメージやアイデアの豊かな自由性を奨励し、したがって、発想も構成も、主題追求に、条件を与える場合と与えない場合とが、その目的によって、ちがうのである。しかし空間認識や色彩感覚及び主題と構成との関連性には、低学年から中学年、高学年へと、自己評価、相互評価、集団討議による、造形思考の深まりを、とくに造形能力の基礎的な面において、厳しい追求をさせるのである。それが次の学習へのステップとして、表現へ生きてゆくよう指導している。また、社会行事への参加も積極的評価の場として、学校行事の中にとり入れ、学習の場において、教科の造形能力を基底におさえた教材構成のもとに実施している。

いま一つは、図工の研究授業の中で、授業分析を行なっていることである。これは40分ないしは90分の授業の展開において、全職員が1人で2人ないしは3人のこどもの造形活動の転移を詳細に観察記録し、発想の変化、構成の転移、主題の坐折等、個人の過程経路図を作成し、教師の助言とこどもの対応認識の極態を精密に把握し、こどもの認識と、基礎的造形能力の定着度を検討することによって、実際指導の場における、具体的指導法の確立を目ざしているわけである。

さて、こどものデザイン教育について、基本理念とその実態をのべてみたい。デザインによって、こどものどんな造形能力を開発し伸展させようとするかについては、究極は、こどもの現時点における生活の完熟を期しているのである。すなわち、こどもが自己の具体的生活事象のなかから、真に切実に欲求するものがまずデザインの日であり、萌芽であると考えている。こどもは、自己の生活の場において、何を求めようとしているかの教師の洞察力と、児童、教師の対応の場における造形的視点の開発と相俟って、こどものアイデアは、無限に拡大するし、追求しはじめるであろうと思っている。学級生活における場、遊びの場、学校全領域における場、家庭生活における場など、集団における個の立場と、個人の内面の世界もまた、デザイン学習の場と考えている。本校のデザイン教育もまだまだその開拓の分野の日も浅いのであるが、昨年と本年の実践の歩みは、各教室、校舎の掲示作品によって、その方向の一端を知っていただけたら幸いである。

心象面においては、とくに、こどもの空間認識の把握が1番問題の焦点となっている。造形能力において、その構成能力は、生活空間のとらえが、いかなる発達の状態にあるか、それが表現の場において、いかなる抵抗と阻害が横たわっているかに追求の視点を置いて、ここ3年ばかりの研究課題となっている。さらに主題追求が、構成とともに、色価（パルール）に大きな破調をみせることは、どこでも悩みのたねである。1週2時間ないし3時間のプログラムは、いかに基礎能力の能率化をはかる面で検討されるべき問題点である。

第五分科会とデザイン部会における、本校の佐藤、佐々木両部員の研究発表は、本校の心象機能両面の指導の一端であるが、この機会に諸賢のご指導を賜り度く予定している次第である。

発想と主題性について

児童に主題性をもたせずに写生会に臨み適当に現場を与えて描かせると、大部分のものは視覚的に形や色彩の変化・刺激・興味だけの感性的な表現のみに終わってしまう場合が多い。

たとえば大通公園などであれば、アンテナや煙突によって視覚的变化のはっきり描き出された空と建物のアウトラインを追いかけるか、さもなくば色とりどりに咲き乱れる花壇の花に殺到する。アンテナやネオンや煙突、そして屋上の手すりなど、なんとなくリズムカルな変化に意識が集中するのであろう。でも建築に対する主題性をもっている訳でないから、よく見つめさえすればビルの窓なども形の大小、配列のちがひ、整然としたリズム感など造形的美しさも表現できるのだが、空とビルの屋上のアウトラインの視覚的变化の追求だけにおわり、窓の造形美などおかまいなしにただ概念的に四角をならべ、しまいにそれが四角とも丸ともつかない窓になってしまったりする。それでもこの場合など、なんとかなしに絵らしさが感ぜられるからましな方で、花壇に殺到した児童らは色と香りに誘われる蜂みたいなもので、見た目の美しさなどとも表現できるはずもないから、すぐ飽きて、ついにはほっぽり出して飛んだり跳ねたりということになってしまう。

ここで主題性のもつ意義と望ましい表現内容との関連や位置づけがはっきりしてくる訳であるが、では主題性を持つことによってそれがすぐ表現できるかとなると次に構想・構成という過程で多くの抵抗、隘路、問題点をもっているようである。

主題と画面位置の関係から

3、4年生を例に自然社会を主題にとった場合、空とアウトラインを基線とする空間認識の順次性が多くの傾向として見られ、それゆえに主題が駐車場のたくさんのお車が空と建物のアウトラインを基線として描き出す結果、主題位置は完全に下部に尻つぼみ同様、やっとならぬ位置を占めているにすぎなくなる。

つまりこの時期は空間認識と基線の表現性との関連において、ほとんどの場合の主題位置が、主題そのものに適合した画面位置を占めず、多くのものは下にさがり過ぎている。あるいは左・または右に寄り過ぎている。

主題のねらいは画面のほんの一部になってしまっている、などの例が多い。(主題位置が上にあがりすぎたものは見られない)

主題位置の適合性を得られないために児童のねらいそのものが十分表現できないという点がこの児童たちの多くの者が示した問題点であった。この場合画面の中で「ねらい」として必要な部分はどこまでか、不要な部分は手でおさえかくしてみると「ねらい」はぐんと目立って生きてくることを気づかせることにより、主題に即応した画面構成の指導がなされたのである。

主体と従属の関係について

画面分割の面積比によるものと、主題の意味(内容物として表出せられるもの)の両面から考えられるが基底線等による二等分分割による(海水浴による陸面と海面、映画館の銀幕と客席などの配分比)相殺関係はほとんど見られず、内容として物体を画面の中央にポツンと置くことによる空間相互の相殺関係が目立ったようである。

線の造形的把握と認識性について

「まっすぐに水平になっていた車道と歩道を少し右へ傾けてみたらおもしろくなったよ」恵輔、駅前駐車場、画面の他の部分との有機的な対応によってなされるもので水平線や地平線あるいは電柱や建物の垂直線を左右いずれにか傾けるとダイナミックな感覚を生む。これは画面分割比などとともに構成上の客観的な法則性の一つである。

主題を強め内容を豊かにするための内容構成

必要なものの補足、移動省略

「屋台のうしろの道路があいて変だったから自転車を描き入れたらうまくいった」(とうきび売りのおばさん)美紀子「むこうの水銀灯を持ってきつたら大通り公園らしくなった」(まり子)「こけしと熊との間にならんでいるがくぶちを描きかけたけど、とちゅうでいらぬなと思ってぬかして描いた」(こけし売り場)ひろやす。主として4年生であったが、現場のスケッチ場面で対象物の取捨選択移動などの構成意識がみられて構想化への志向でもある。

登場するものの性格づけ

祝 第14回全道造形教育研究大会
第9回造形教育センター全国大会 (受付順)

THINK THINK
more THINK

北海道開拓とともに歩んで来た

北海道拓殖銀行

●第4回拓銀こども美術展

A…展覧会9月16日～9月22日

B…会場 札幌

C…札幌会場終了後 道内主要都市巡回いたします。



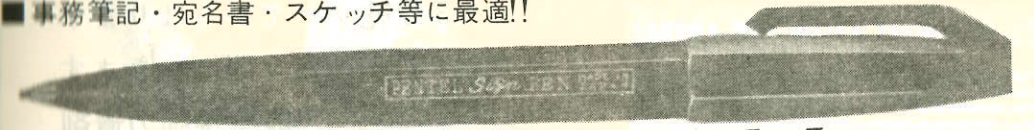
北海道拓殖銀行

* 水彩えのぐの決定版!

ぺんてるえのぐ

F 12

■ 事務筆記・宛名書・スケッチ等に最適!!



赤 黒 青

ぺんてる サインペン



ぺんてる 本舗

大日本文具株式会社札幌支店

T 24-1450



優雅な美の表現

ギターペイント

ギターパス



マジックインキ

寺西化学工業株式会社
東京・大阪・名古屋・札幌

教科書・書籍・雑誌・文房具・事務用品

まるふじ

札幌市北9条東1バス停前
電話代表 ㉞-2378

学校工作用接着剤なら

3分乾かしてからはります
アッという間につきます
万能型接強力着剤

セメダイン ジョイント

20円 50円
6cc 20cc入



セメダイン株式会社

— らく や き 諸 原 材 料 —
… 造 形 教 材 教 具 専 門 …

北 陶 社

◆ 営 業 品 目

- ・各種粘土製造販売
- ・額皿製造販売
- ・らくやき指導
- ・陶器窯の築造
- ・版画用品、用具
- ・画用紙、色紙類各種
- ・その他一搬教材

工 場 札幌市琴似町山の手3条1丁目
T~⑥-8056

事 務 所 札幌市北6条西1丁目北山ビル
T~⑦-1921

※来札の節は気軽にお立寄り下さい

ゆたかな造形感覚を伸すためには
さくらのえのぐがいちばんです!

さくらマット水彩

●12色 ¥120 18色 ¥180



クレパス本舗 株式会社 桜商会

◇文具・書籍・雑誌・煙草・雑貨・ゼルマン化粧品
その他学校ご用達

小 田 代 北 辰 堂

札幌市北7条西16丁目

TEL ⑥ ~ 7 6 3 2

最も進んだデザイン教材

デザインと基礎学習

中学 1.2.3 年用
各 冊 60 円

色 の 学 習

小学校 4.5.6 年用
各 冊 60 円

配 色 トレーニングに 色研ワーク

発行 日本色彩社

代理店 札幌南一・西三
大丸 藤井商店

学校工作用具の専門店

営業品目

学校工作用具・技術・家庭科用具
機械大工道具・各メーカー電動工具
機械ト工具・刃物類・彫刻道具
各国産砥石・鋸力屋・左官道具

三条教材工具製作株式会社
北海道総発売元

株式会社

義鈴木屋商店

札幌市南3条西8丁目
TEL ② 5264・⑤ 9641

諸官庁、各学校、鉄道、自衛隊、商事部
札幌市北8条西3丁目
TEL ①0 274・③1 389

学研スライド

美術科

世界名作美術シリーズ

対象・小中高校……美術科 全100こま ￥6,500 カラーカット

監修・東京国立博物館学芸部長

野間清六

★監修のことは★

指導・解説

東京都世田谷区
指導主事(図工科・美術科)

島崎政太郎

東京都世田谷区立
桜丘小学校

勝田寛一

人間をとりまく自然は美しいが、その美は未整理です。古い昔から、多くの芸術家は、その自然の美を消化、整理して、私たちに、美の本質を教え続けて今日の文化を作ってくれました。
どのような時代に、どのような芸術家が、どのようなことを教えてくれたかを理解する、よき資料としてこのスライドを利用していただきたいと思ひます。

学研副読本

色彩とデザイン 中学校1,2,3年別 定価各70円

- ★本書は色彩とデザインを同等に扱いながら理解させる項目(テキスト)と作業させる項目(ワーク)の両者を適確にねらった。
- ★本書では各学年の学習内容に完全にマッチした構成で4色刷りのページと色画用紙、画用紙を用いている。

本社・東京/大田 全国・35支社 北海道支社 札幌市南25条西8丁目
TEL ① 6752・② 6525

折れない、削らない、便利な
太さ3倍!!

スケッチ用ボールペン



1本 30えん { 黒 赤 青

オートボールペン工業株式会社

札幌営業所 和田英二
札幌市北1. 東2. 24-7512

ホルベインの油絵具



ホルベインの画用液

ホルベインの画材

図工教育・美術教育をより高めるために!!

学 習 参 考 書

- 倉田三郎先生他著 小学生のデザイン 4年・5年・6年 各P.24 定価各50円
- 倉田三郎先生他著 中学校のデザイン 1年・2年・3年 各P.32 定価各70円
- 中学校 美術の研究と問題 全1冊 定価60円
- 倉田三郎先生他著 美術のテスト A4判28枚全 定価45円

教 材 教 具 類

- ★デザイン・色彩・彫塑 立体構成・版画等 各種教材
- ★掛図・スライド・教具類
- ★画用紙・クレヨン 絵の具セット

■御申越次第カタログ送呈■

北海道の教育現場とともに歩む 北海教育評論社

札幌市北1西2時計台裏
振替小樽12250 TEL.24-9141

絵画材料・造形教材

クサカベ油絵具と画材
ポスターカラー
水彩絵具と画紙
油土・石膏

日本色彩社版
色彩教材取揃
.....
額縁と美術複製品

日本色彩社・クサカベ油絵具北海道代理店

札幌
南一西三

太藤井商店

電話 大代表 23-1131

ざんしんなデザイン

各種額縁と洋画材料

株式会社 松山額縁店

サツホロ S2W1 TEL (24) 6726



お泊りに……ご会合に
北師会館 をどうぞ
場所……札幌市南21条西12丁目
学大札幌分校正門前
T 26-18052

室数
洋室(一人用)三
洋室(二人用)一
和室(六畳)二
大広間(六〇人収容)
会議室(三〇人収容)

宿泊料
宿料(三三〇円)
朝食(一三〇円)
夕食(二五〇円)
貸席
一五〇円〜一、〇〇〇円
乗物
三越前から電車
②⑥学大終点

道内で……粘土工作品の百貨店……
唯一の

取扱用品

各種粘土・釉薬絵具・各ロクロ
粘土工作板・工作ペラ・各乳鉢
ゼーゲル錐・溶融剤セロゲン
焼石膏・白セメント・寒水石
錦窯・電気窯・簡易窯
石綿手袋・版画用品等々

◆施工と実技指導

1. 粘土細工の仕方
2. 弊社の独創に成る、陶器窯の施工とその焼成の仕方
3. 石膏細工の仕方、型取り方

野幌陶芸社

北海道江別市野幌9番地

① 江別 2737番・カタログご一報次第

学童の健康に!
のみよいビタミンA・D・C



四月号発売

1粒中の主成分

大木製薬株式会社
札幌出張所

札幌市北15条西4丁目
TEL 札幌 (71) 9549

ビタミンA 2,000国際単位
ビタミンD₂ 200国際単位
ビタミンC 20ミリグラム

学童の栄養補給には……

消化吸収よ
き完全乳化
特殊皮膜で
効力安定

カワイ肝油ドロッツ

(学校用) 一粒中ビタミン含量 A 3000国際単位 D 300国際単位
その他燐、カルシウム含有



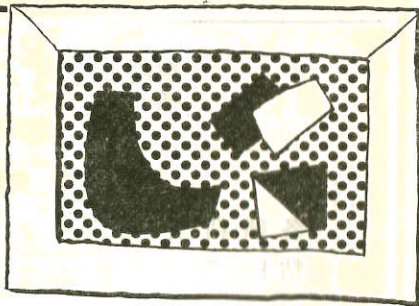
製造発売元 **河合製薬株式会社**

東京都中野区野方町2丁目 電話東京 (385) 3111 (代表)

北海道出張所

札幌市北8条西13丁目 電話 札幌②7401

額縁は
お部屋の中のアクセサリ—



服部額縁店

札幌・北1西10 TEL (22) 6029 (25) 6682

学協利用で 豊かで平和な暮らし

北海道学校生活協同組合

TEL ㉓ 0434 ㉔ 6493

御申込次第写真入りカタログ贈呈

第9回国体バスケット設備の光栄を担った学友社 体育器具と体育設備

バスケットゴールスタンド
引揚式各種
ゴースト
後版取付及加工製
高・低鉄棒
跳箱・マット
スプリングボール
平均台各種
陸上競技用具
バレー用支柱
肋木・平行棒
吊棒・吊環
ブランコ
ジャングルジム
シーソー・廻旋盤

学友社

代表取締役 坂原 義弘
札幌市南一条西六丁目仲通 電話 ㉔6243 ㉔7843番
工場 札幌市北十九条東一丁目 電話 ㉒19554番

体育館新築の節は是非御相談下さい

暑中お見舞申し上げます。

時節がら乳製品はお早めにお召しあがりください。

食欲がにぶって体力の消耗する夏………
栄養価の高い雪印バターをぜひどうぞ!!
風味はフレッシュ! 世界に誇る最高級品です。



●バターのふるさと北海道…

雪印バター

●姉妹品 電印チーズ《雪印乳業株式会社》



日立家庭電気品のお買い求は お手軽な12回と20回払いで!!

新しいコンソール
ステレオラック16
現金正価 65,800円
月賦正価 69,400円(12ヵ月払)
(価格は、イヤホン1個・脚つき、
アンテナ代と取付代は含みません)

オートチェンジャー
3バンドの最高級設計
シンフォニカ7000
FMステレオアダプター内蔵可能
現金正価 72,000円
月賦正価 76,000円(12ヵ月払)

すべてをそなえた理想形
(押ボタン霜とり)
R-104A
現金正価 54,300円
月賦正価 58,200円(12ヵ月払)
総内容積100ℓ・有効内容積97ℓ

日立家庭電器・日日月販取扱店 理興産業株式会社

本社 札幌市北1条東3丁目 TEL 代表 ㉔ 2191
営業所 旭川市東4条6丁目47 TEL ㉔ 0393 ㉔ 0631
釧路市栄町11丁目2 TEL ㉔ 0329 ㉔ 6327

センスと品格ある 洋画額縁・土産品

狸小路の

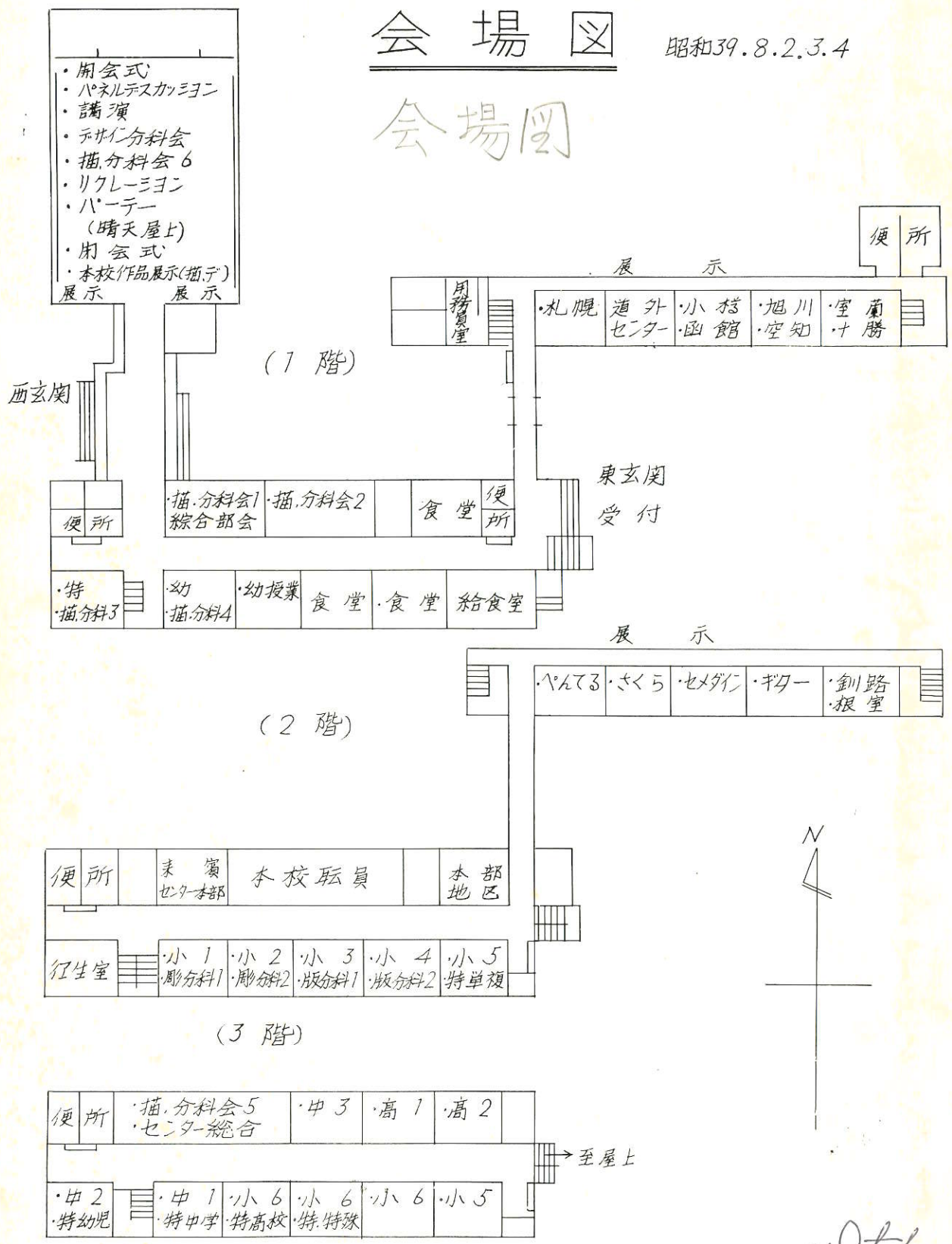
野田でございます

TEL ㉓~2203 狸小路2丁目 野田額縁店

会場図

昭和39.8.23.4

会場図



aj Otoh
1964